

百相鍵盤『き』

パソコンの鍵盤で実現した文字盤入力方式

考え方と入力操作の概要

越川 和忠

(09-05-30土 更新)

文字盤入力方式とは、邦文タイプライターや文字盤タブレットのように、使用可能な文字が並ぶ面上で、目的の文字を直接指して入力して行く方式である。

文字は、通常、種類によって領域に分けて配置され、領域内では、それぞれ分かりやすい順序で（例えば、漢字は五十音順のように）並べられているので、全体の配置を把握して配列規則を拠り所にするれば、文字の位置を知ることはそう難しい問題ではなくなる。ただ、広い文字盤の細かい位置を次々指して文章を入力して行くとなると、必ずしも楽とはいえない。

そこで、文字鍵が指の届く範囲に収まる通常の鍵盤を広い文字盤の階層的折り畳み形態のように使うことで、上記操作性の難点を取り除き、打鍵で目的字に至る各段階の配列を順次盤面に示して、**文字の一覧性**も保つ独自の仕組みが、この**百相鍵盤**である。

即ち、**百相鍵盤**はキートップがダイナミックに替わる鍵盤である。それをソフトウェア的に実現して、すべての文字が見通しのよい最小限の打鍵操作で入る方式をパソコンの鍵盤で可能にしている。ローマ字で候補のリストを出さなくても、使える文字全体の様子が始めから見えているので、配列規則を決めて並べておけば、文字は互いの位置を教え合う存在になり、鍵を知るのも、覚えるのも容易になる。これによって、漢字など多数の文字を妥当な時間と労力で打ち分けることができるようになる。

他には行われていない方式なので、まず、鍵盤から文字を入力する場合に一般に行われている半角字の入力と漢字などをローマ字から変換して入れる方式の要点を示し、両者の比較から、文字盤による方式がよいといえることを説明する。

次に、通常の鍵盤は文字鍵が50足らずしかなく、文字打鍵として区別できるのは、シフトを使っても百足らずである。その鍵盤で数千、数万の文字に対する文字鍵を確保するため、多数の鍵盤を手際よく切り替えて使う様式にした独自の階層化の方法について説明する。

そして、

この方式による入力操作の感じが掴めるように、短い文章を例に、打鍵に伴って入れ替わる盤面の様子を一連の鍵盤図で示す。

また、文字の割り当てを定義するファイルの書式についても、資料として、最後に収めてある。

この方式は、92年に具体化して、自分がテキスト入力全般に用いているものである。
本稿は Windows XP、OpenOffice.org Impressで作成し、文字はこの方式で入力している。



はじめに、
一般に行われている 鍵盤からの文字入力 の
要点を以下20枚のスライドで説明する。

一般的な鍵盤の模式図（文字入力の主要部）



キートップに「K」と刻んである鍵を打てば、「k」の字が入る。



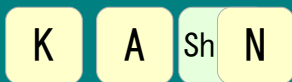
「a」を入れるなら、「A」と刻んである鍵を打てばよい。



大文字「N」なら、シフトを押しながら「N」の鍵を打てば入る。

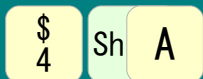


1



kaN

2



漢

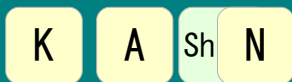
漢字等を 鍵盤から入る2字の符丁(符牒)で表して入れる。

例えば、“4Aと打ったら漢の字が入る”というやり方である。
この方法で約1万の文字を打ち分けることができる。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法

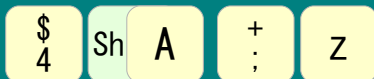


1



kaN

2



漢字

但し、入力しようとする文字の符丁を覚えている必要がある。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2



漢字

但し、入力しようとする文字の符丁を覚えている必要がある。

つまり、
符丁を構成する文字の鍵については、盤面を見ればわかるが、
どう綴ればよいかは、盤面を見てもわからない。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1

K A Sh N

kaN

2.1

\$4 Sh A +;

漢字

2.2

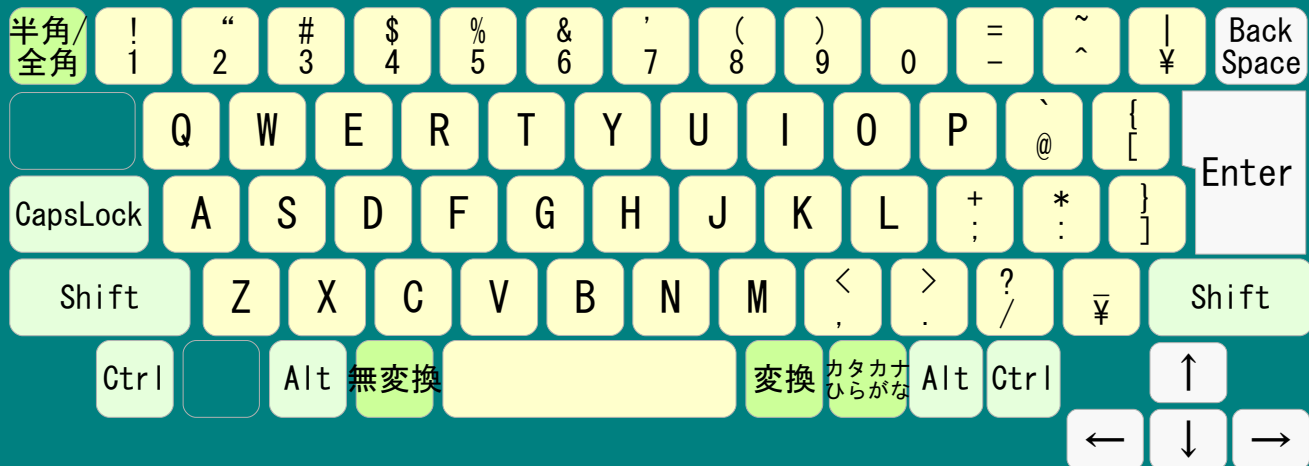
" 0 #3 #3

漢

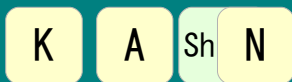
文字コードのような 文字配列の番号 を符丁にして入力する。

例えば、“漢は、区画20の33番目にあるので、2033 と打つ” というやり方である。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



漢字

2.2



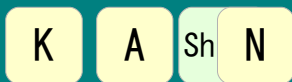
漢字

配列規則を手掛かりに出来るが、直ぐ分かるとは限らない。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



漢字

2.2



漢字

2.3



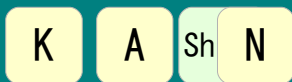
漢

読みのローマ字表記を符丁にして、内部で目的字に変換させる。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



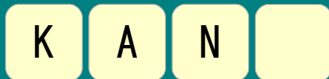
漢字

2.2



漢字

2.3



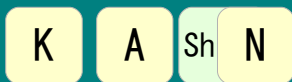
漢

但し、どこまでが読みか、その終りを知らせる打鍵が要る。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



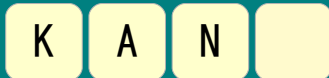
漢字

2.2



漢字

2.3



間 冠 漢 缶 感 ...

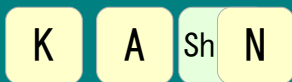
更に、読みの同じ文字が複数あれば、これだけでは定まらない。

そのため、通常、その複数が“候補”として画面に表示される。
ここで、やっと、目的の字を**見て確認**することができる。

鍵盤



1



kaN

2.1



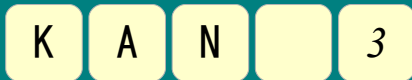
漢字

2.2



漢字

2.3



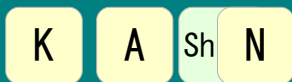
漢

それから、目的字の鍵を打つ(1打鍵で区別可能な数は94まで)。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



漢字

2.2



漢字

2.3



漢辞時児字地自…

同様に、「字」のつもりなら…

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1 K A Sh N kaN

2.1 \$ Sh A + z 漢字

2.2 “ 0 # # “ ’) 0 漢字

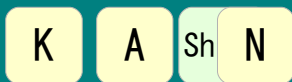
2.3 K A N 3 J I 4 漢字

となる。が、何か冗長なやり方という感じがする。そこで…

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



1



kaN

2.1



漢字

2.2



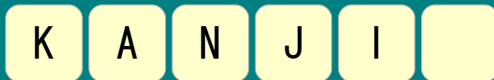
漢字

2.3



漢字

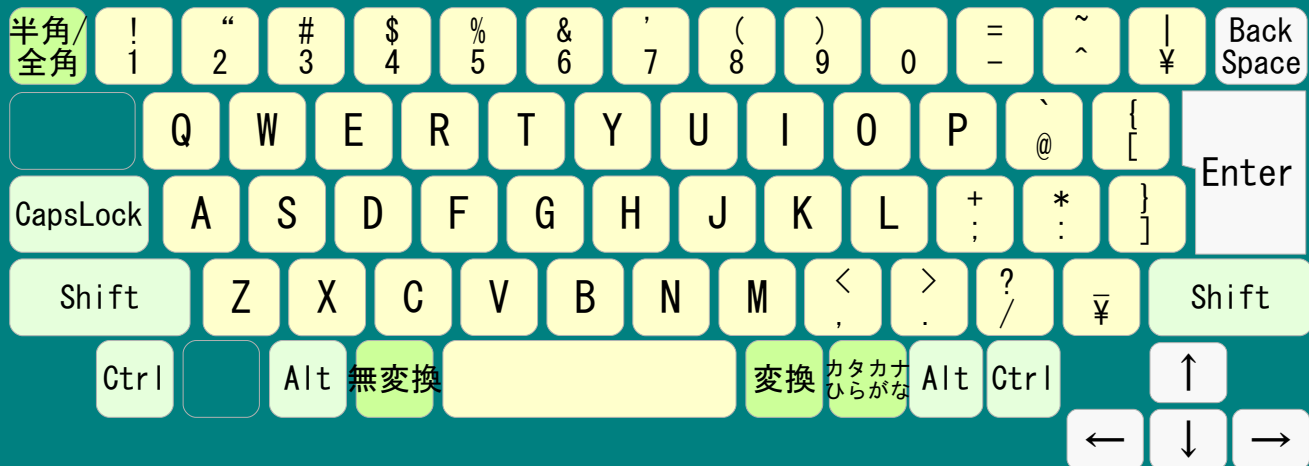
2.4



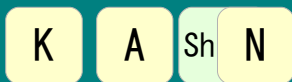
漢字

鍵盤

語句を単位にし、その読みを符丁にして目的表記に変換させる。



1



kaN

2.1



漢字

2.2



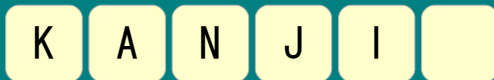
漢字

2.3



漢字

2.4



感じ 漢字 幹事 寛二 ...

鍵盤 こうしても、一般には同じ読みの表記が他にあり得るので…



K A Sh N

kaN

\$ 4 Sh A + ; Z

漢字

“ 2 0 # 3 # 3 “ ’) 9 0

漢字

K A N *I* J I 4

漢字

K A N J I 2

漢字

候補から選ぶ打鍵も要る。方法としては2.3と変らない。が…



1 K A Sh N kaN

2.1 \$ Sh A + z 漢字

2.2 “ 0 # # “ ’) 0 漢字

2.3 K A N / J I 4 漢字

2.4 ? 一入 行火 三和土…

鍵盤 字は知っていても、語句の読みを知らない時は候補も出せない。

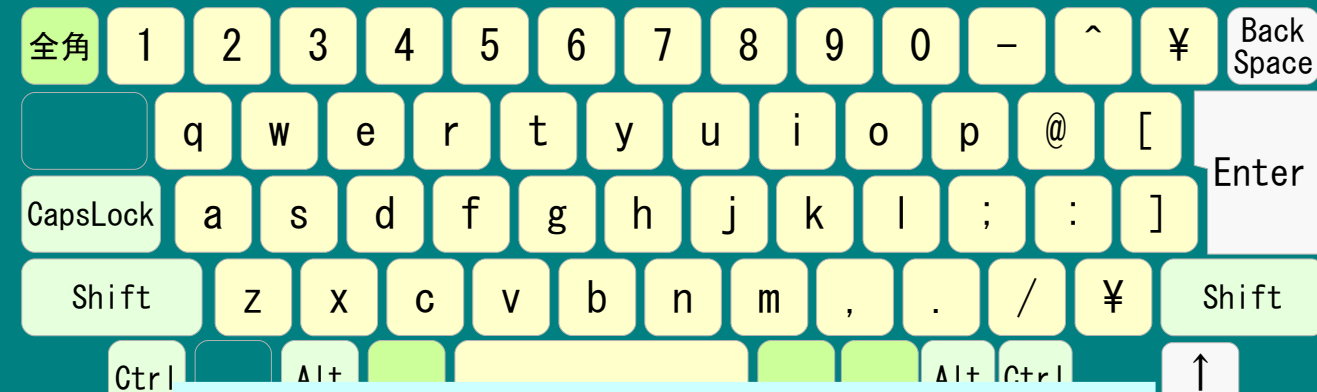


このようなもどかしさは、結局、キートップがアルファベットに固定しているという事情から生じている。つまり、文字は表記の単位であり、図形としてのその形（字形）が情報を担っている。

もし、漢字などの一般文字にも文字鍵があれば、始めからそれを見て打つ操作で入力できる。鍵を知っていれば、無論 見なくても打てる。適切な配列にして、文字同士の関係を 鍵の位置関係に対応付けておけば、目的鍵を探すのも、覚えるのも容易になる。

符丁で特定するやり方では、位置関係の図的直観性も活かせない。

鍵盤にない文字を入力する場合に一般に採られている方法



Shiftなし

そこで、キートップをダイナミックに替える。



Shiftを押している状態

キートップがダイナミックに替わる鍵盤



3

漢

漢

キートップが「漢」の鍵を打てば、「漢」の字が入る。

図の漢字配列は、
日常よく使う漢字約3千字を読みの五十音順に並べて、
94文字ずつ区切った表の一部(JIS X 0208 20区1～47点)
で、かゆ～カンのあたりが並んでいる。

漢字など一般文字の文字鍵が並ぶ鍵盤による文字入力



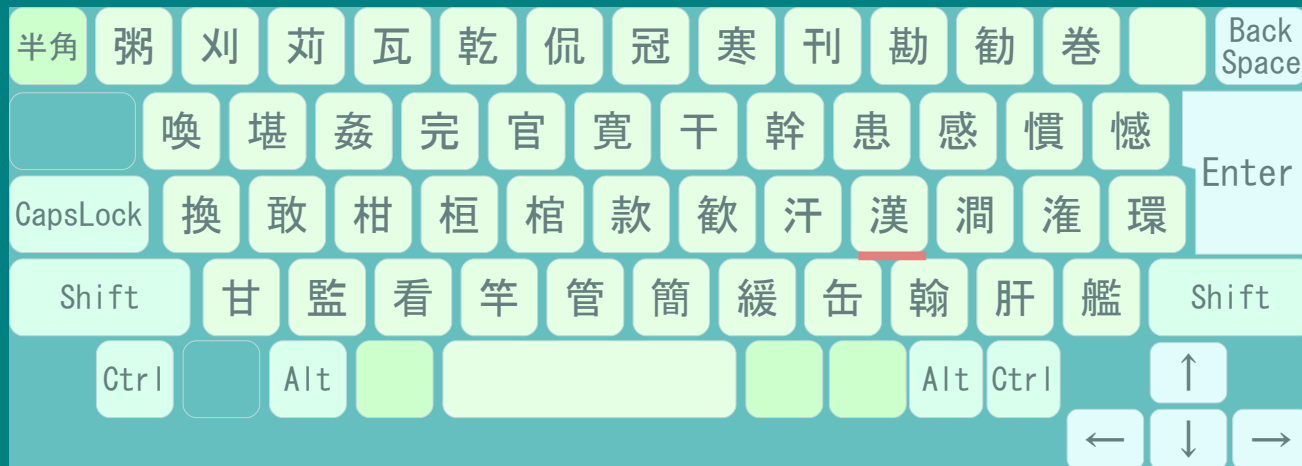
3

漢 字 漢字

キートップが「字」の鍵を打つと、「字」の字が入る。

図の漢字配列は、
前図と同様、JIS X 0208 の一部で、
27区48～94点、シ(後半)～ジ(前半)のあたりである。

漢字など一般文字の文字鍵が並ぶ鍵盤による文字入力



3



但し、文字の鍵を打つ前に、その鍵盤を出すための打鍵が要る。

そこで、
文字の入る鍵盤(文字鍵盤)の群だけではなく、
その群を統括する上位の鍵盤も導入して、その文字鍵で、
文字鍵盤を仕分ける、という方法を採用。
即ち…

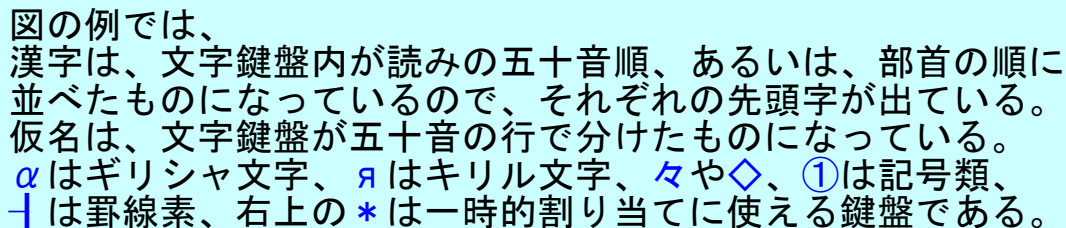
漢字など一般文字の文字鍵が並ぶ鍵盤による文字入力

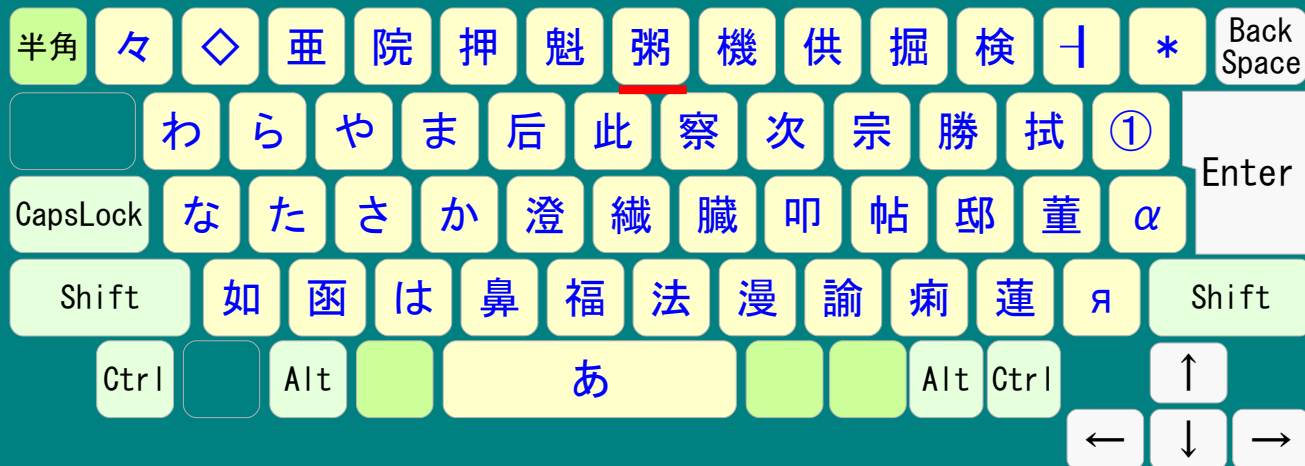


文字鍵盤を仕分ける上位階層鍵盤（甲鍵盤）



文字鍵盤を仕分ける上位階層鍵盤（甲鍵盤）





3

粥

「漢」は、粥から始まる鍵盤の見出し粥が出ている鍵を打ち…

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



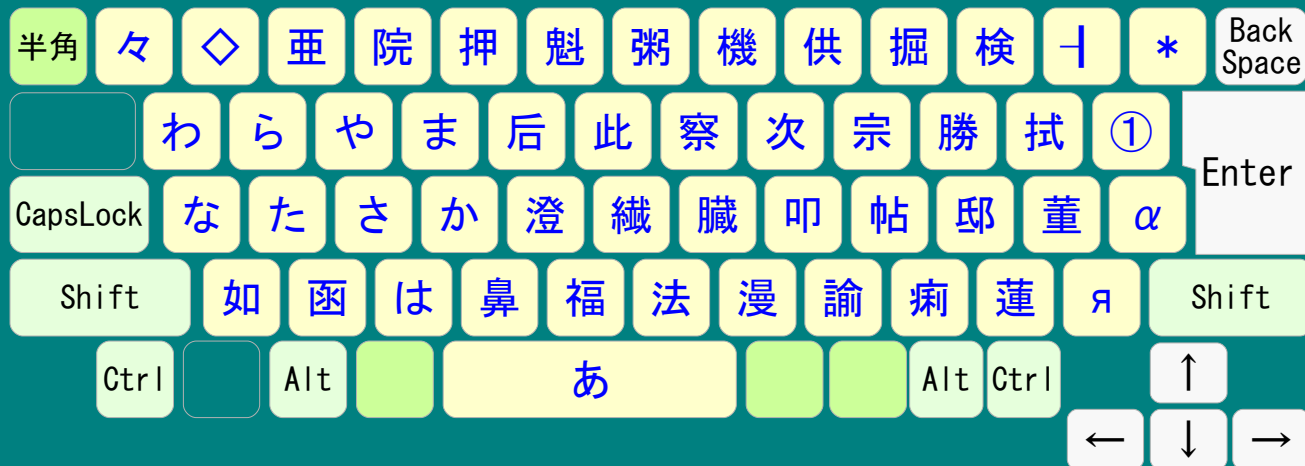
3

粥 漢

漢

その文字鍵盤（乙鍵盤）を出して、「漢」の鍵を打つ。

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



3

粥 漢

漢

文字が入ると、甲鍵盤に戻る。

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



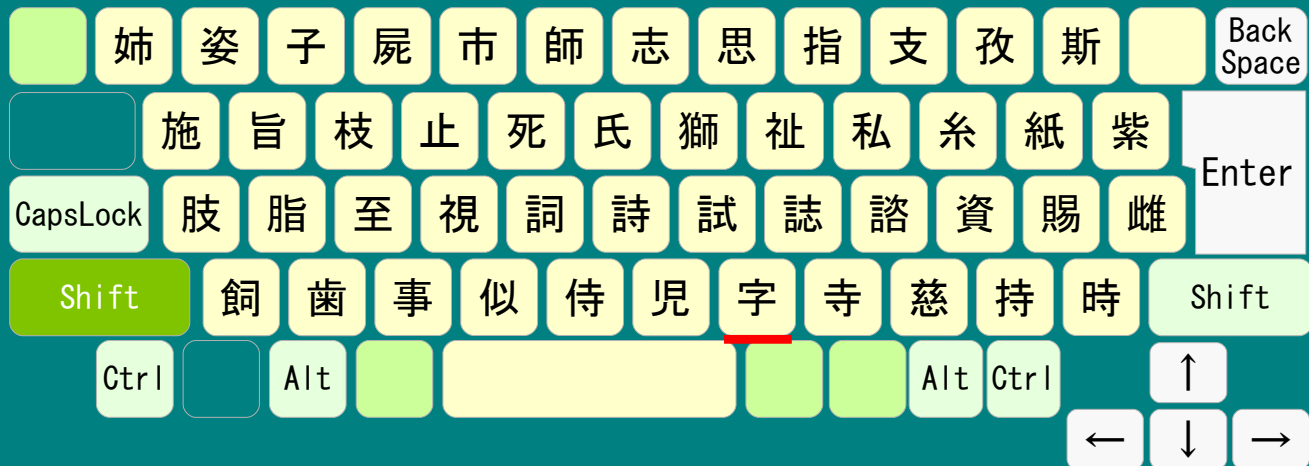
3

粥 漢 察

漢

同様に、「字」は 察 の乙鍵盤にあるので、その鍵を打って…

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



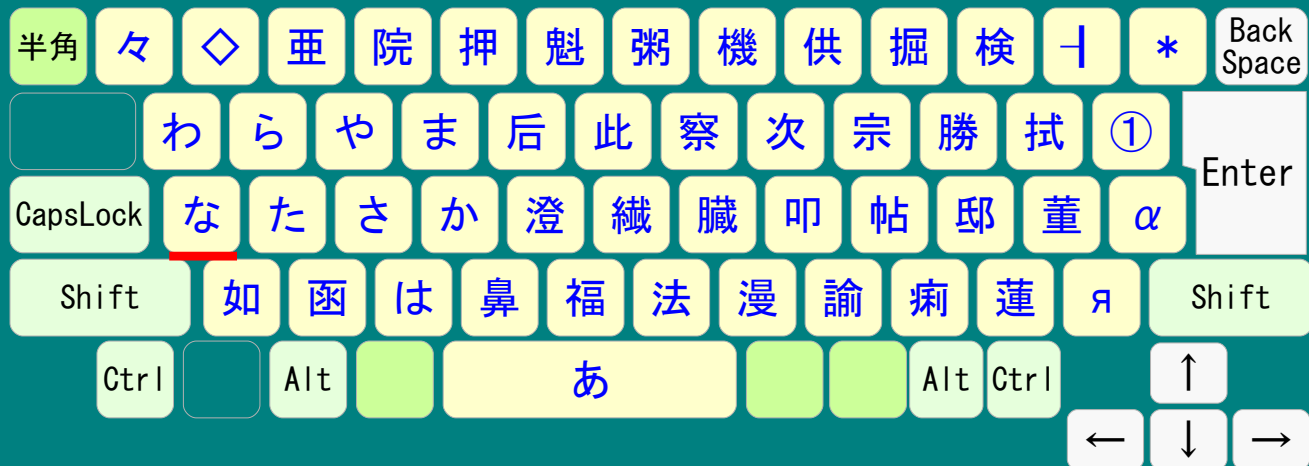
3

粥 漢 察 sh 字

漢字

乙鍵盤を出し(この場合Shiftを押した面で)「字」の鍵を打つ。

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



3

粥 漢 察 sh 字 な

漢字

更に、「の」であれば、な行の字なので、**な** の鍵を打って…

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列

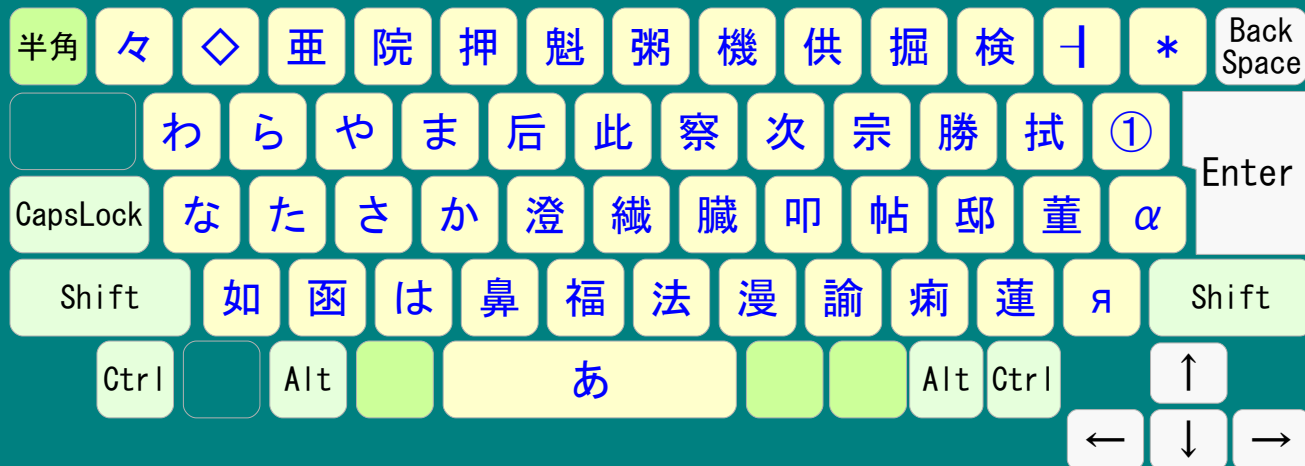


3

粥 漢 察 sh 字 な の 漢字の

な行の鍵盤を出し、「の」の鍵を打つ。「の」が入って…

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



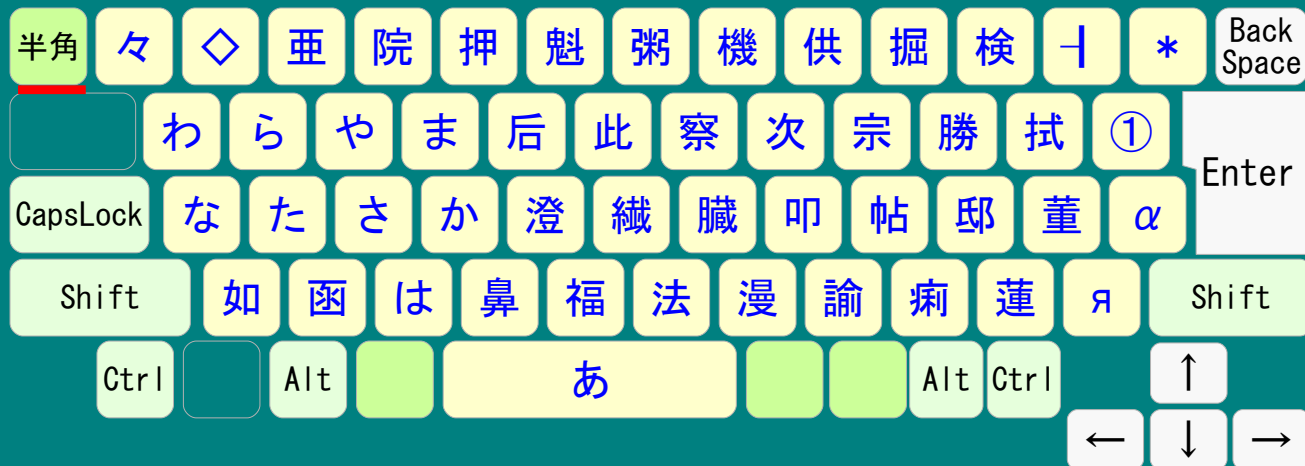
3

粥 漢 察 sh 字 な の 漢字の

甲鍵盤に戻る、という具合に進める。

文字やその割り当て方(配字)は、自由に決めることができる。本稿では、自分が長年使っている配字(『き』)を例にして、方式を具体的に説明する。『き』は、JIS X 0208 の全文字を配している。

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



3

粥 漢 察 sh 字 な の 半角 漢字の

ここで、「半角」と出ている鍵を打つと…

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



3



半角字の入る通常の鍵盤（単打鍵盤）に替わる。

このように様々に替わる配列を鍵盤の表情になぞらえて、

- ・ 1 打鍵で半角英数字などを入れる状態を「単打相」、
- ・ 甲乙 2 打鍵で一般の文字を入れる状態を「複打相」、
- ・ 単打相・複打相を交互に切り替える鍵を「打相鍵」と呼ぶ。

「百相鍵盤」における文字入力の打鍵列



1

ところで、現在一般に使われている鍵盤では、
このようにキートップを替えることはできない。

2.1

そこで、当面、鍵盤は通常のものを使い、
その内容を画面に鍵盤図の様式で表示させ、
それをキートップの代りに見ることにする。

2.2

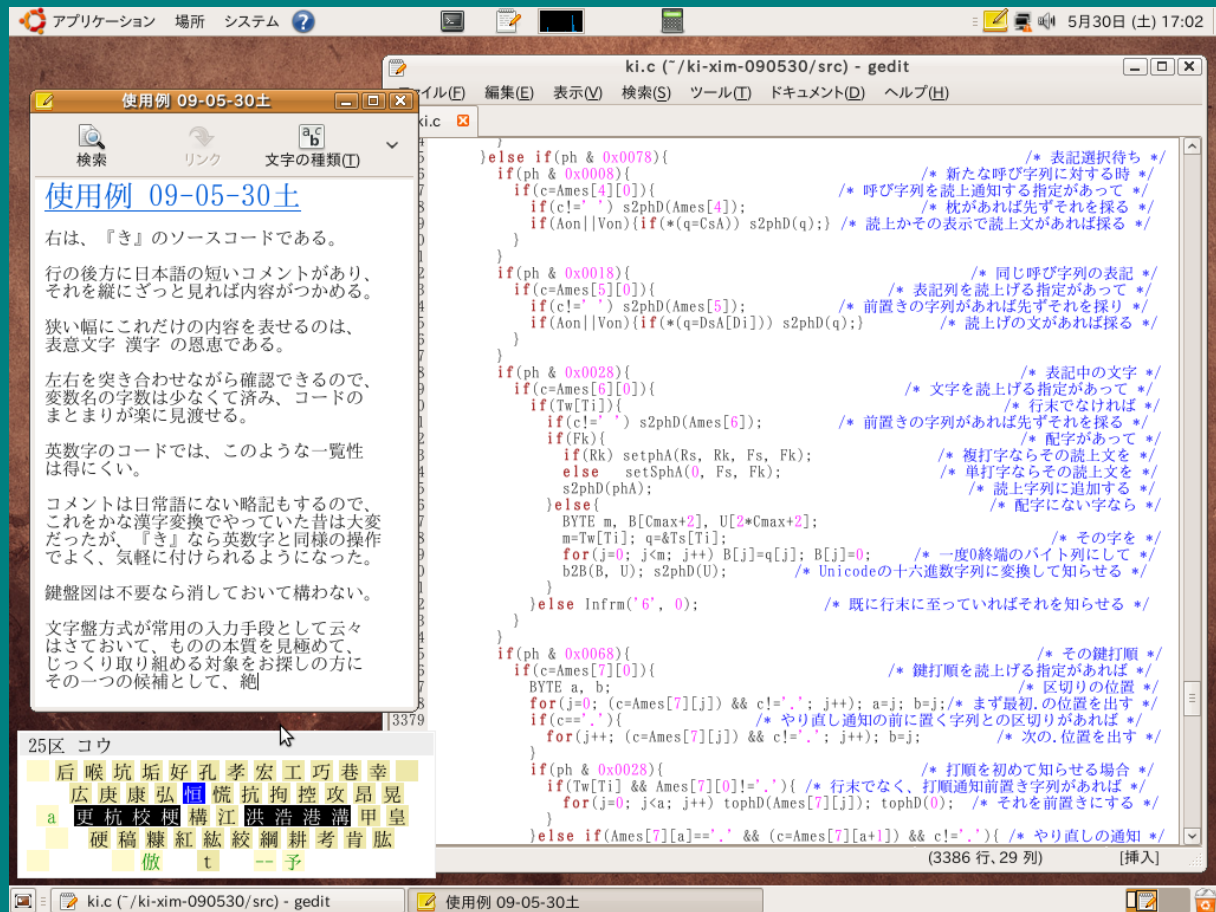
2.3

これによって、
“キートップがダイナミックに替わる鍵盤”
(百相鍵盤)をソフトウェア的に実現している。

2.4

3





TOSHIBA DynaBook SS S5/280PNLN, Ubuntu 8.10 日本語 Remix, ki-xim-090530

鍵盤図を表示させて文章を入力している様子



K54
(打相鍵)



文字鍵配列を
模式図にする
だけであれば
こうなるが、
このままでは
各鍵の位置を
知るのに一寸
戸惑うので…

鍵盤内容の画面表示様式（単打相）



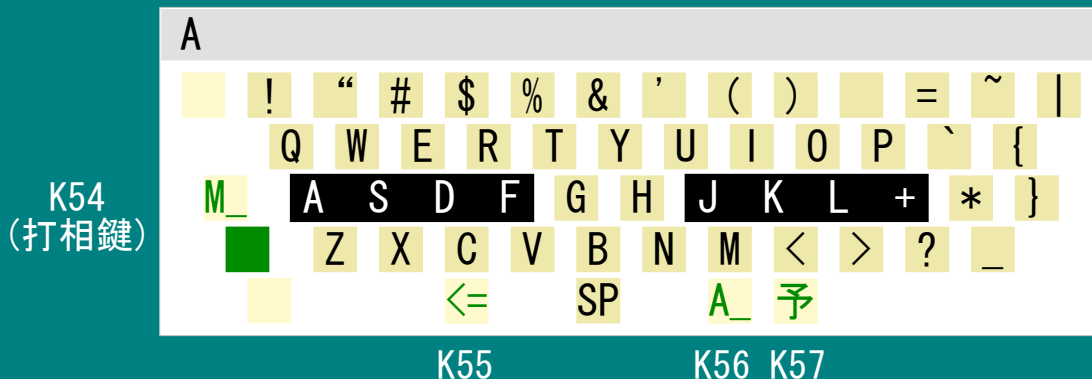
K54
(打相鍵)



指を置く左右
の基本位置を

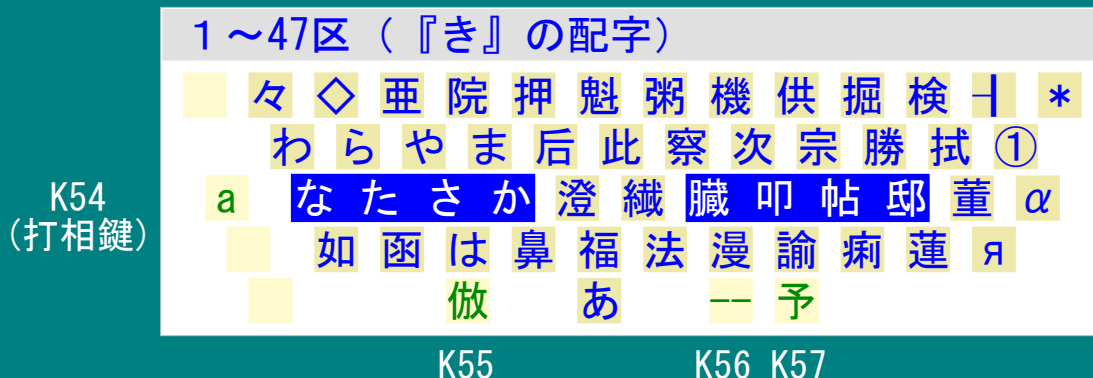
で示して、
相対的に掴み
やすくする。

鍵盤内容の画面表示様式（単打相）



■ は Shift を押していることを表す。右のShift を押していても左側に示す。

鍵盤内容の画面表示様式（単打相 Shiftを押した状態）



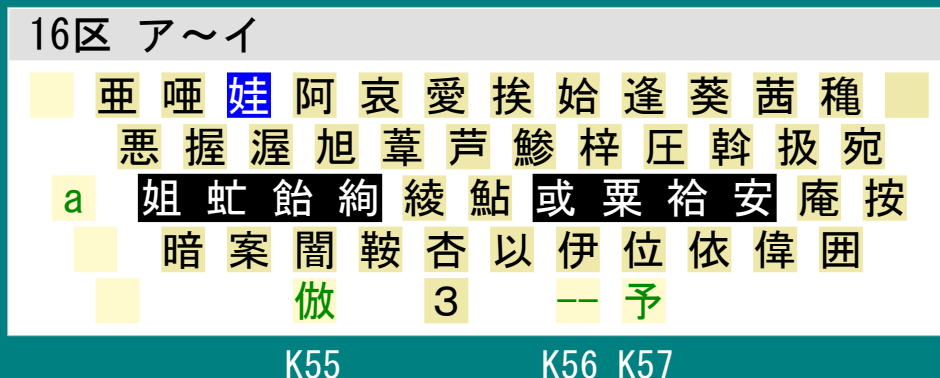
文字鍵盤との
区別が、
見て直ぐ判る
ように、色を
変えてある。

鍵盤内容の画面表示様式 (複打相 甲鍵盤)

K54




K54
(打相鍵)



は
この乙鍵盤を
甲鍵盤で出す
時に打つ鍵の
位置を示す。

鍵盤内容の画面表示様式 (複打相 乙鍵盤)

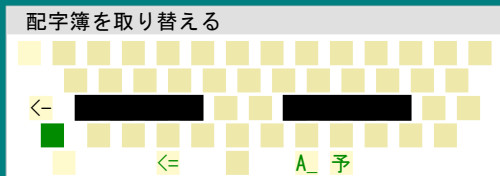
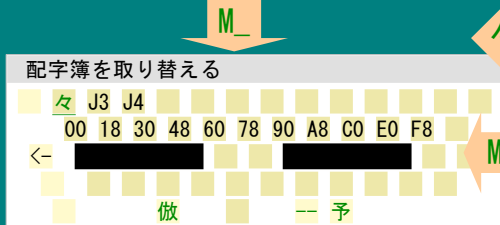
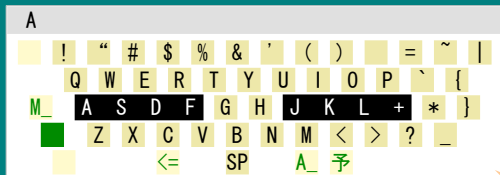
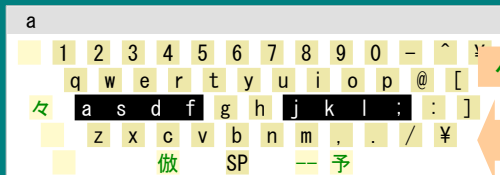


但し甲鍵盤で
Shiftを押し
ながら打つ鍵
で出る乙鍵盤
の時は、

で表す。

鍵盤内容の画面表示様式（複打相 乙鍵盤）

単打相

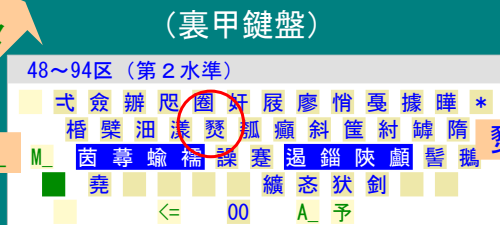
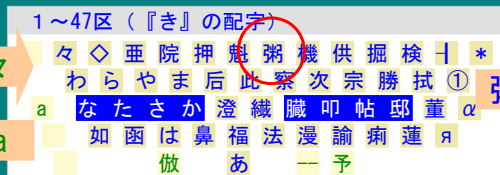
単打鍵盤（単打字）



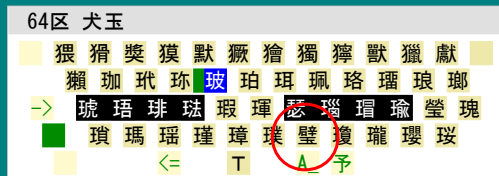
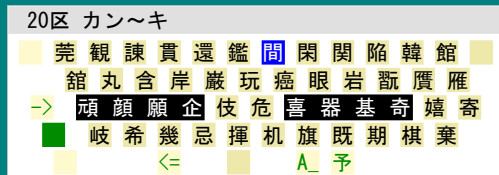
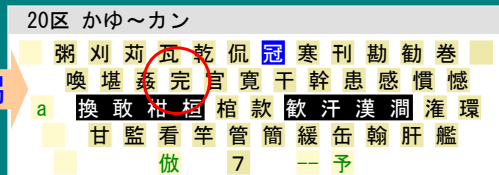
配字簿鍵盤（甲鍵盤選択）

複打相

甲鍵盤（乙鍵盤選択）



乙鍵盤（複打字）



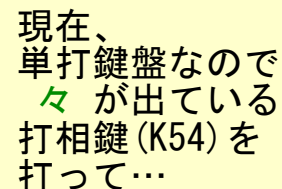
百相鍵盤の骨格

（例は「完」「壁」を入力する場合）

文字入力に関与する鍵盤の遷移

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

これから打つ鍵を（Shiftは押す時と放す時に） で示す。



「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

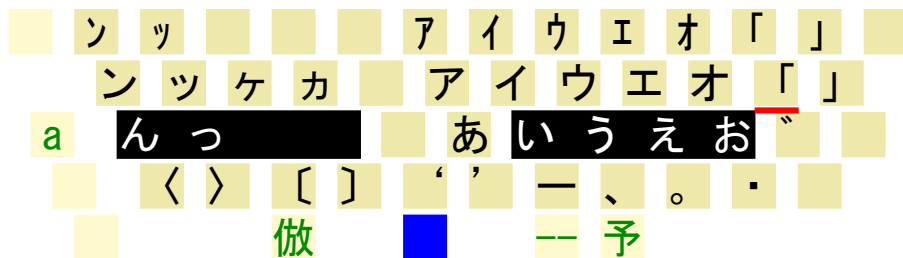
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

甲鍵盤にする。

「は あ行の鍵盤にあるので、
あ の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤にする。

「 は
右小指上段斜右に
あるので、
その鍵を打つと…

「**百相鍵盤**」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	<u>鼻</u>	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
			倣	あ		一	予					

「**が**が入って
甲鍵盤に戻る。

百 は
鼻から始まる鍵盤に
あるので、
鼻 の鍵を打って…

「**百相鍵盤**」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

41区 ビ～ヒン

鼻	柁	稗	匹	疋	髭	彦	膝	菱	肘	弼	必	
畢	筆	逼	桧	姫	媛	紐	百	謬	俵	彪	標	
a	氷	漂	瓢	票	表	評	豹	廟	描	病	秒	苗
	錨	鉦	蒜	蛭	鰭	品	彬	斌	浜	瀕	貧	
			倣		v		一	予				

鼻から始まる鍵盤を出す。

右中指上段にある
百 の鍵を打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

百 が入って、
甲鍵盤に戻る。

相 は
織から始まる鍵盤に
あるので、
織 の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

33区 セン～ソウ

	織	羨	腺	舛	船	薦	詮	賤	踐	選	遷	錢	
	銑	閃	鮮	前	善	漸	然	全	禪	繕	膳	糰	
a	噌	塑	岨	措	曾	曾	楚	狙	疏	疎	礎	祖	
	租	粗	素	組	蘇	訴	阻	遯	鼠	僧	創		
			倣		h		一	予					

織から始まる鍵盤にする。

相は Shiftを押して
出す鍵盤（裏鍵盤）にある。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

33区 ソウ～ゾウ

■	双	叢	倉	喪	壯	奏	爽	宋	層	匝	惣	想	■
	搜	掃	挿	搔	操	早	曹	巢	槍	槽	漕	燥	
->	争	瘦	相	窓	糟	総	綜	聰	草	莊	葬	蒼	
■	藻	装	走	送	遭	鎗	霜	騷	像	増	憎		
■			<=				A_	予					

Shiftを押して、
その状態の鍵盤で、
左中指にある 相 を
打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

式 僉 辦 咫 圉 奸 屐 廖 悄 戛 據 曄 *

椿 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罇 隋

M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 鎬 陝 顱 髻 鵝

堯 續 忒 狢 釗

<= 00 A_ 予

相が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

鍵 は
検から始まる鍵盤に
あるので、
検 の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

24区 ケン～コ

■	検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県	肩	見	謙	■
	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験	鹼	元	原	厳	幻	
a	弦	減	源	玄	現	絃	舷	言	諺	限	乎	個	
	古	呼	固	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯		
			倣		一		一	予					

検から始まる鍵盤にする。

左人差指上段にある
鍵 の鍵を打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		予						

鍵 が入って、
甲鍵盤に戻る。

盤 は
函から始まる鍵盤に
あるので、
函 の鍵を打って…

「百相鍵盤^盤」は、
キートップ[°]（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

40区 はこ～ハン

■	函	箱	砵	箸	肇	筈	櫨	幡	肌	畑	畠	八	■
	鉢	澆	発	醜	髪	伐	罰	抜	筏	閤	鳩	嘶	
a	塙	蛤	隼	伴	判	半	反	叛	帆	搬	斑	板	
■	汜	汎	版	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範		
—			倣		x		—	予					

函から始まる鍵盤に
する。

盤は裏鍵盤にある。

「百相鍵盤^盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

40区 ハン～ビ

■	采	煩	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	匪	■
	卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐	比	泌	
->	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被	誹	費	避	非	
■	飛	樋	簸	備	尾	微	枇	毘	琵	眉	美		
■			<=				A_	予					

Shiftを押して出る
鍵盤で、
右中指最上段にある
盤 の鍵を打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狖	釗				
			<=		00		A_	予					

盤 の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

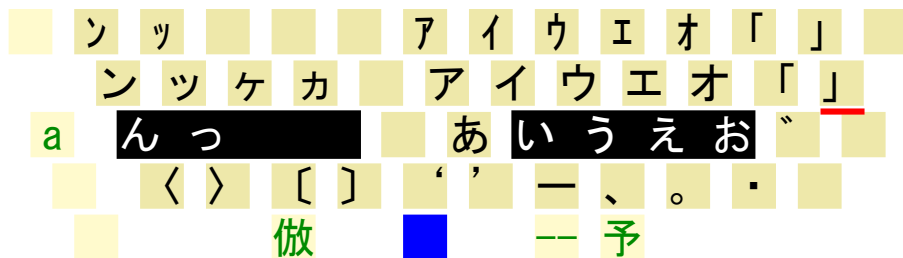
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

」は、「と同類で
あ行の鍵盤に
あるので、
あの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤にする。

」は
右小指上段「の右に
あるので、
その鍵を打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

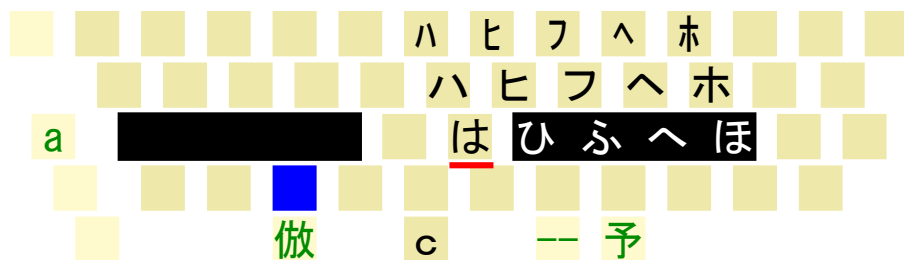
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

」が入って、
甲鍵盤に戻る。

は は、 は行の鍵盤
にあるので、
は の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

は行



は行の鍵盤にし、
右人差指左にある
は の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

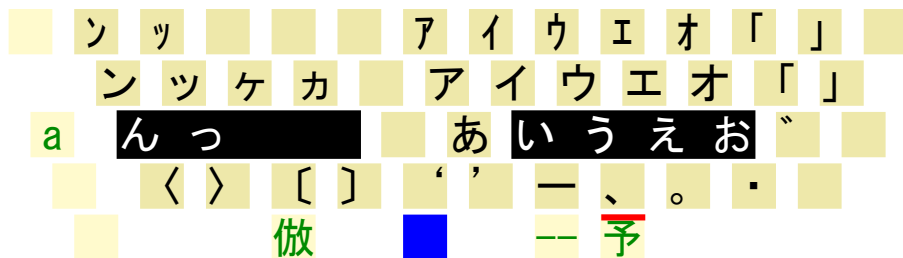
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

は が入って、
甲鍵盤に戻る。

、 は、 あ行の鍵盤
に配してあるので、
あ の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤にする。

、 は
右中指下段にある
ので、
その鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

Enter

、が入って、
甲鍵盤に戻る。

ここで改行する。
即ち、Enter (K63) を
打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

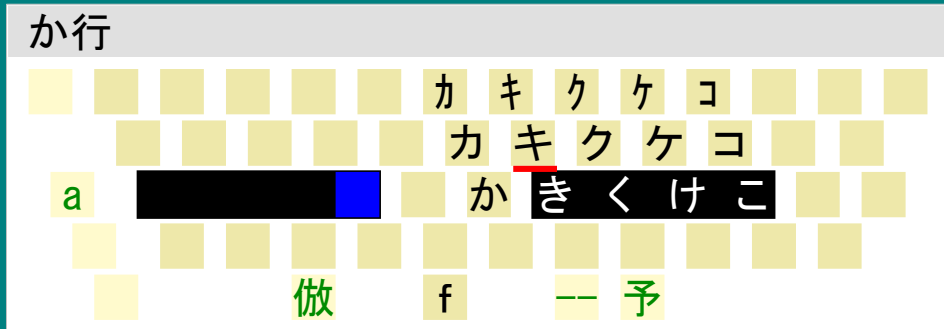
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

キ は、か行の鍵盤
にある。

か の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
|キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



か行の鍵盤にする。

カタカナは上段に配してある。
右人差指上段にあるキの鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

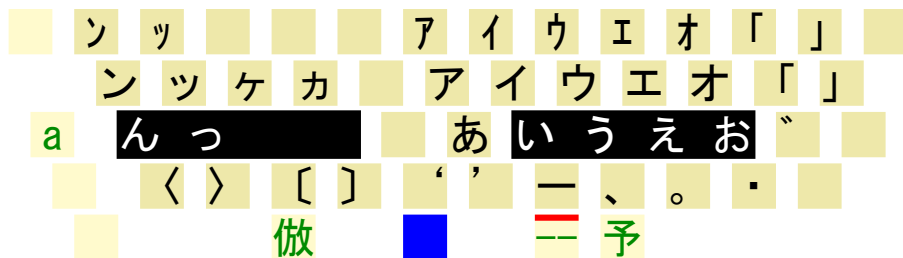
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	一	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

キが入って、
甲鍵盤に戻る。

一 は、あ行の鍵盤
に配してあるので、
あの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤にする。

一は右人差指下段
(、の左)にある。
その鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キー|トッ^プ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

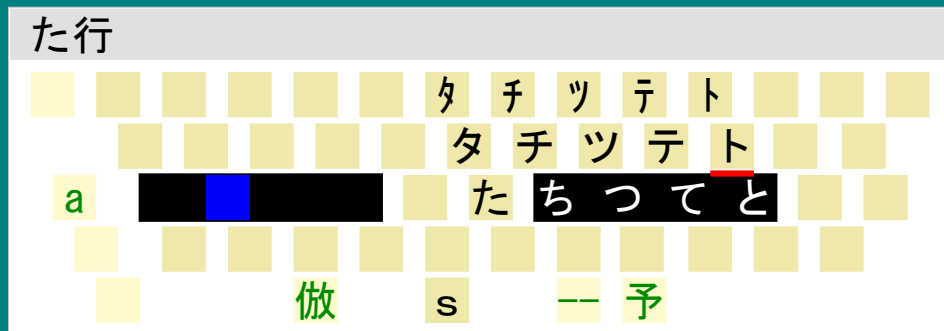
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	ト	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

トが入って、
甲鍵盤に戻る。

トは、
たの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キー|トッポ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



た行の鍵盤で、
右小指上段にある
ト の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

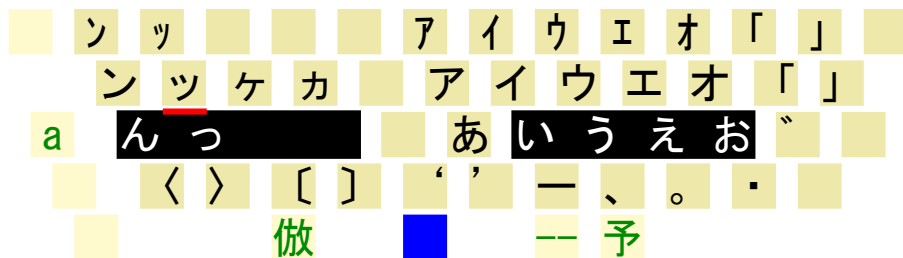
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	ト	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

トが入って、
甲鍵盤に戻る。

ッ は、 あ行の鍵盤
に配してある。
あの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤で、
左薬指上段にある
ッの鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートツ^プ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

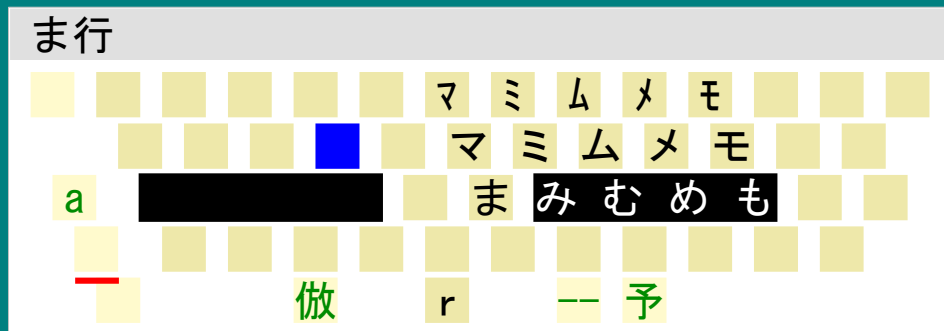
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

ッが入って、
甲鍵盤に戻る。

半濁音は、
ま行の濁音相当の
位置に配してある。

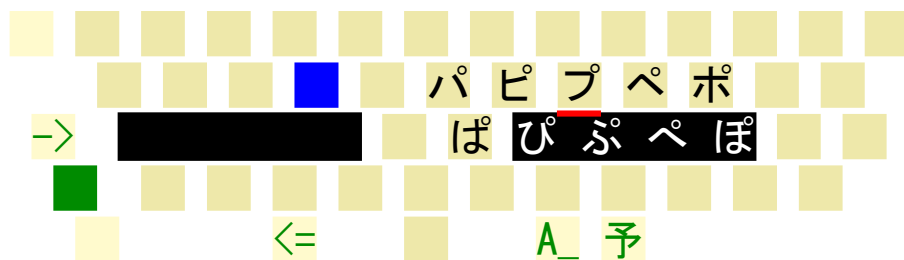
「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



ま行の鍵盤にする。
プは裏鍵盤にある。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

ぱ行（半濁音）



Shiftを押しながら
出る鍵盤で、
右中指上段にある
プ の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ^o（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汨	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

プ の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ^o（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。
全角英数字などは
半角字と同じ鍵を
打って、スペースを
送る形にしてある。
（はShiftを使うので

「百相鍵盤」は、
キートップ|（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

■	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汭	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎰	陝	顱	髻	鵝	
■	堯	■	■	■	■	續	忒	狃	釗	■	■		
■			<=		00	A_	予						

全角（も
Shiftを押しながら
半角（の位置、
即ち 廖が出ている
位置を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ (鍵) が dynamic に変わる鍵盤です。

55区 イ心

	徙	徘徊	徠	徨	徭	徼	忖	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	
	慍	慍	怡	恠	怙	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	
->	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	忤	
	忤	忤	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	恠	
		<=		(A_	予									

Shiftを押したまま
出た鍵盤で、
(が示されている
スペース鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汭	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

（ の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤（裏甲鍵盤）
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（**鍵**）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	<u>検</u>	十	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

鍵 は、既に打った
ことがある。即ち、
検の鍵盤にある。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

24区 ケン～コ

■	検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県	肩	見	謙	■
	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験	鹼	元	原	厳	幻	
a	弦	減	源	玄	現	絃	舷	言	諺	限	乎	個	
	古	呼	固	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯		
			倣		一		一	予					

検から始まる鍵盤で
左人差指上段にある
鍵の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

全角）は、
前に打った全角（と
同様に入れる。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楯	槩	汭	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					纘	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

Shiftを押しながら
半角)の位置、
即ち 悄が出ている
位置を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

56区 心戈

慚 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙
慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙
-> 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙
慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙 慙
<=) A_ 予

Shiftを押したまま
出た鍵盤で、
) が示されている
スペース鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

式僉辦咫圀奸屐廖悄戛據曄*
 椿槩汩漾燹瓠癩磧筐紂罇隋
 M_ 茵蕁螽襦譟蹇遏錙陝顱髻鵝
 堯 續忒狄釗
 <= 00 A_ 予

）の字が入って、Shiftを押した状態の甲鍵盤(裏甲鍵盤)に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

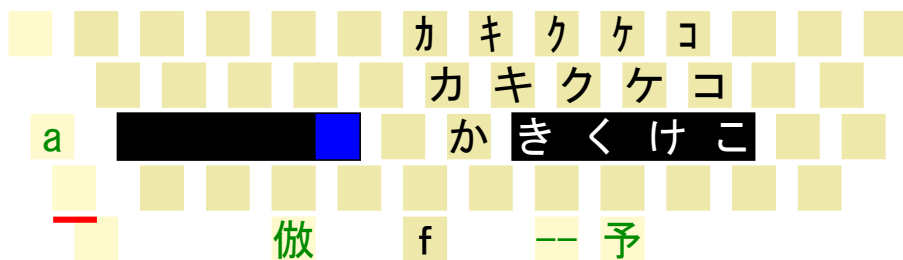
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

が は、か行にあり、
か行は既にキの時に
打ったことがある。
かの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

か行

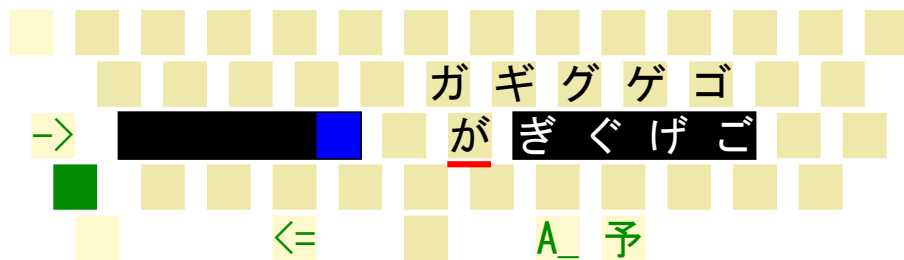


か行の鍵盤にする。

濁点字は裏鍵盤にある。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

が行（か行濁音）



Shiftを押しながら
出る鍵盤で、
右人差指左にある
が の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

が の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤（裏甲鍵盤）
に戻る。
Shiftを放すと…

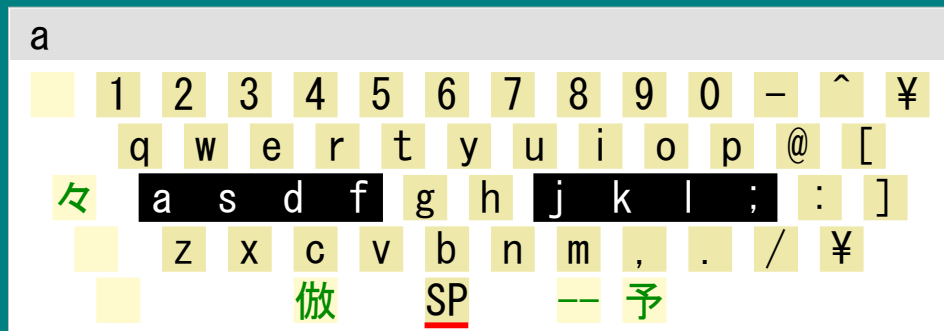
「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。
以後、半角字が続く
ので、
a が出ているK54を
打って、

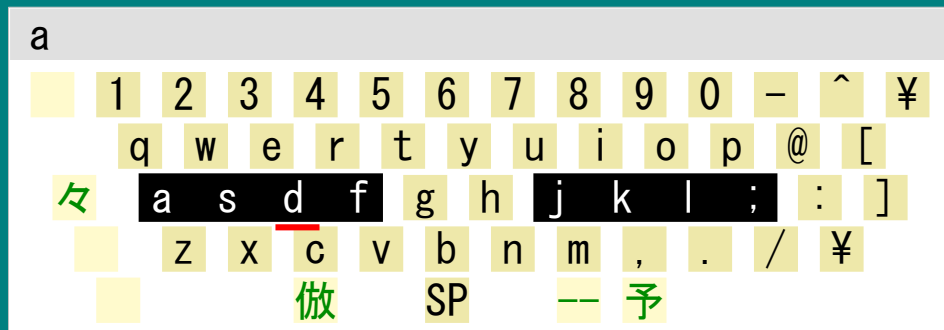
「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



単打鍵盤に
切替える。

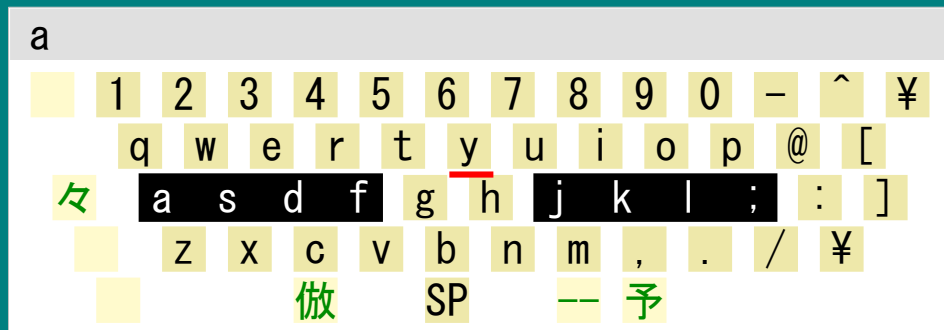
スペースを打ち…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



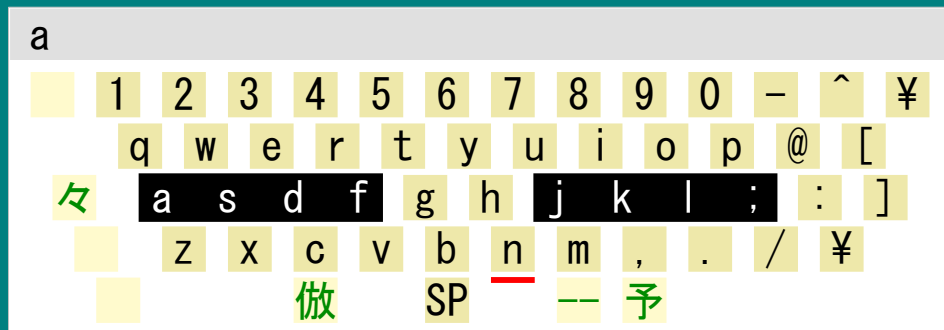
d を打ち…

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



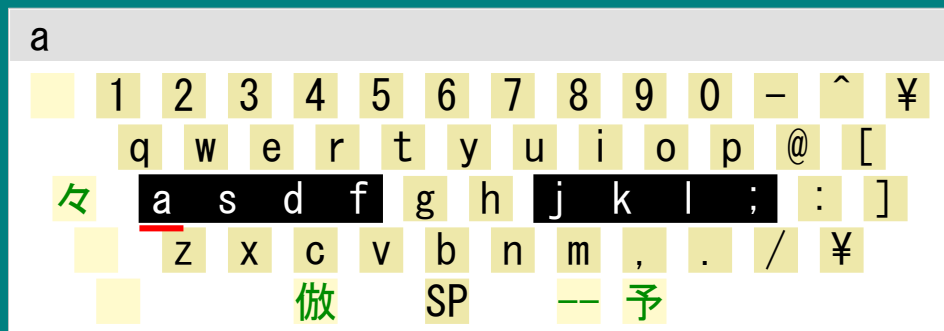
y を打ち...

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



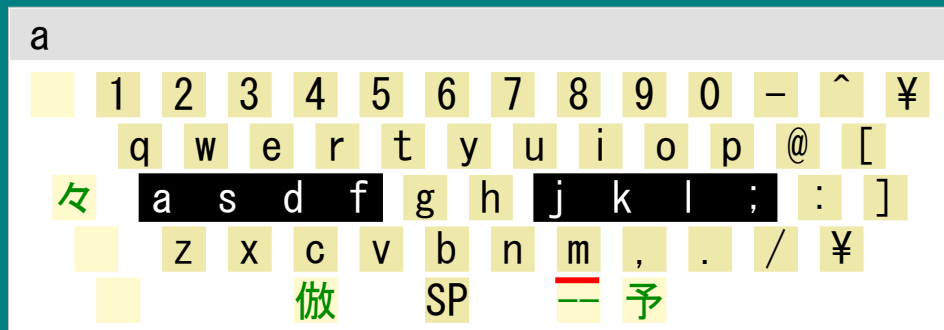
n を打ち...

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



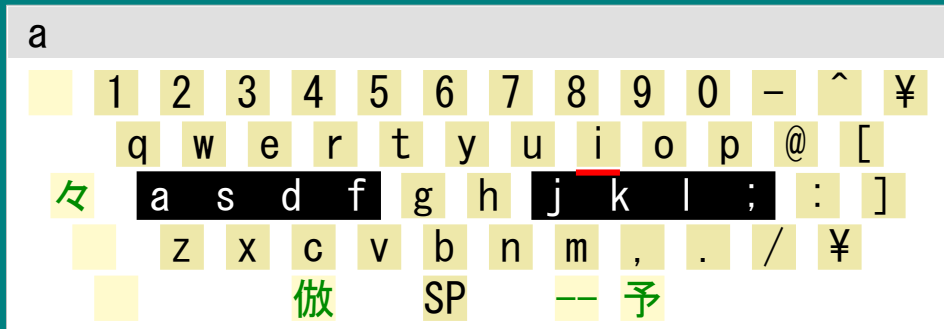
a を打ち…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



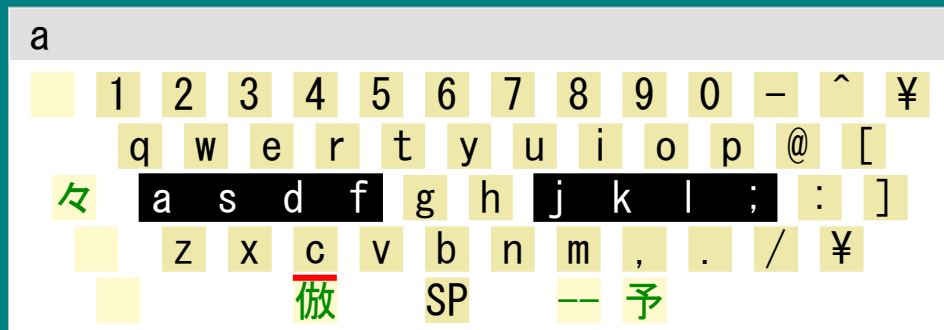
m を打ち…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



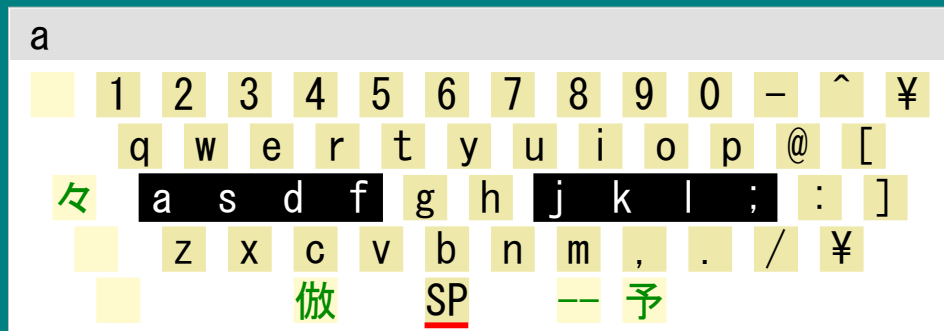
i を打ち...

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



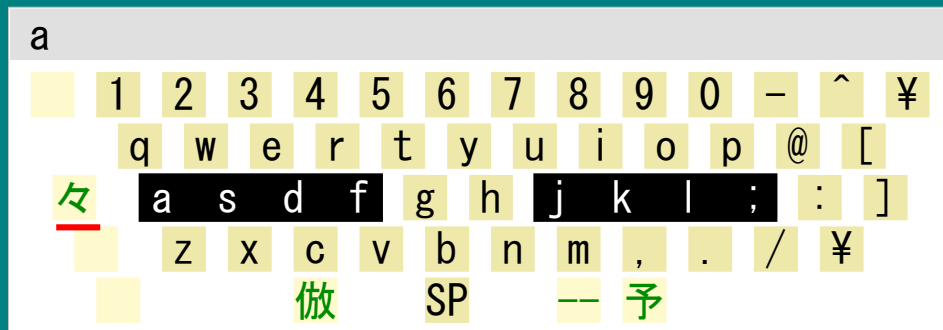
c を打ち…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



スペースを打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



ここから、全角字を
再開するので、
々 が出ているK54を
打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

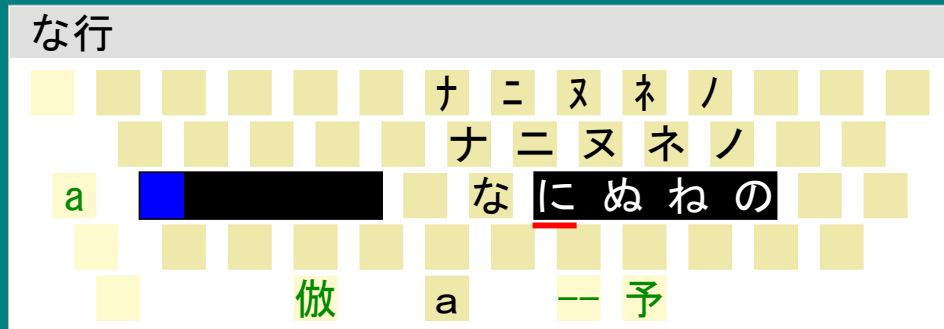
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

甲鍵盤に切替える。

なの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



な行の鍵盤で、
右人差指にある
に の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

変は、福から始まる
鍵盤にある。

福の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

42区 フク～へら

	福	腹	複	覆	淵	弗	払	沸	仏	物	鮎	分	
	吻	噴	墳	憤	扮	焚	奮	粉	糞	紛	雰	文	
a	聞	丙	併	兵	塀	幣	平	弊	柄	並	蔽	閉	
	陞	米	頁	僻	壁	癖	碧	別	瞥	蔑	篋		
			倣		b		一	予					

福から始まる鍵盤にする。

変は裏鍵盤にある。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

42区 ヘン～ホウ

	偏	変	片	篇	編	辺	返	遍	便	勉	婉	弁	
	鞭	保	舗	鋪	圃	捕	歩	甫	補	輔	穂	募	
->	墓	慕	戊	暮	母	簿	菩	倣	俸	包	呆	報	
	奉	宝	峰	峯	崩	庖	抱	捧	放	方	朋		
			<=			A_	予						

Shiftを押して出る
鍵盤で、
左薬指最上段にある
変 の鍵を打つと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汭	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

変 の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

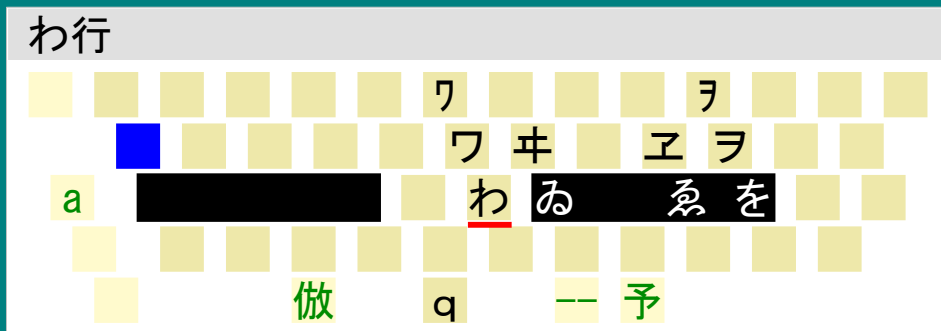
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

わ の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



わ行の鍵盤にし、
右人差指左にある
わ の鍵を打つ。

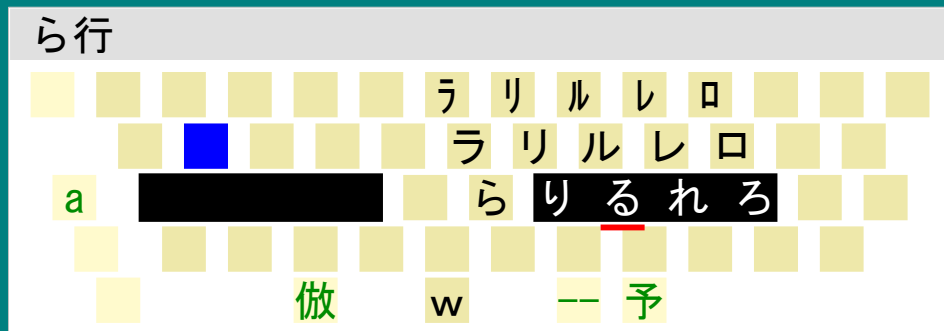
「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

らの鍵を打って…

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



ら行の鍵盤にし、
右中指にある
る の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	ト	*
	わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
			倣		あ		一	予				

「鍵盤」の表記は
既に打っている。

まず、
検 の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

24区 ケン～コ

■	検	権	牽	犬	献	研	硯	絹	県	肩	見	謙	■
	賢	軒	遣	鍵	険	顕	験	鹼	元	原	厳	幻	
a	弦	減	源	玄	現	絃	舷	言	諺	限	乎	個	
	古	呼	固	姑	孤	己	庫	弧	戸	故	枯		
			倣		一		一	予					

検から始まる鍵盤で
左人差指上段にある
鍵の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

盤 は
函から始まる鍵盤に
あるので、
函 の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤盤です。

40区 はこ～ハン

函	箱	砵	箸	肇	筭	櫨	幡	肌	畑	畠	八	
鉢	澆	発	醜	髪	伐	罰	抜	筏	閤	鳩	嘶	
a	塙	蛤	隼	伴	判	半	反	叛	帆	搬	斑	板
	汜	汎	版	犯	班	畔	繁	般	藩	販	範	
		倣			x		一	予				

函から始まる鍵盤にし、
Shiftを押して…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤盤です。

40区 ハン～ビ

采	煩	頒	飯	挽	晩	番	盤	磐	蕃	蛮	匪	
卑	否	妃	庇	彼	悲	扉	批	披	斐	比	泌	
->	疲	皮	碑	秘	緋	罷	肥	被	誹	費	避	非
飛	樋	簸	備	尾	微	枇	毘	琵	眉	美		
		<=				A_	予					

Shiftを押して出る
鍵盤で、
右中指最上段にある
盤 の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汧	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

盤 の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

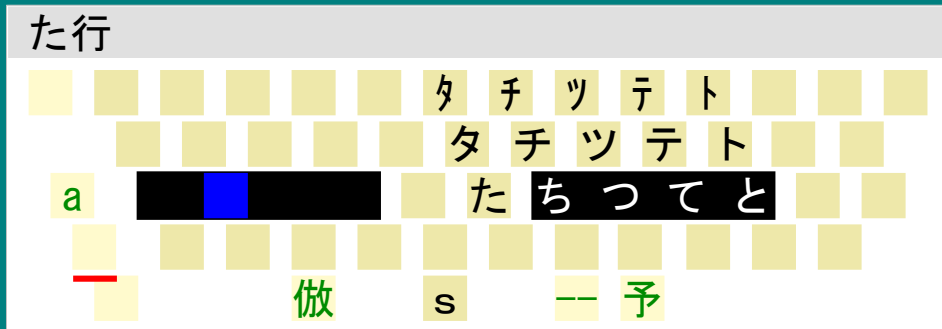
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

では、
た の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

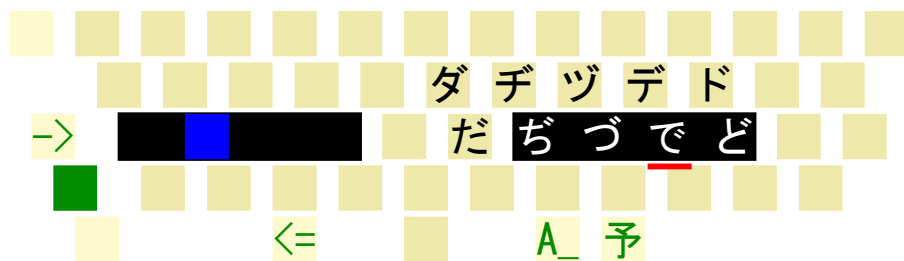


た行の鍵盤にする。

濁点字は裏鍵盤にあるので…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

だ行（た行濁音）



Shiftを押しながら
出る鍵盤で、
右薬指にある
で の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

48～94区（第2水準）

	弌	僉	辦	咫	圀	奸	屐	廖	悄	憂	據	曄	*
	楮	槩	汩	漾	燹	瓠	癩	磧	筐	紂	罇	隋	
M_	茵	蓐	蟪	襦	譟	蹇	遏	鎔	陝	顱	髻	鵝	
	堯					續	忒	狃	釗				
			<=		00		A_	予					

で の字が入って、
Shiftを押した状態
の甲鍵盤（裏甲鍵盤）
に戻る。
Shiftを放すと…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

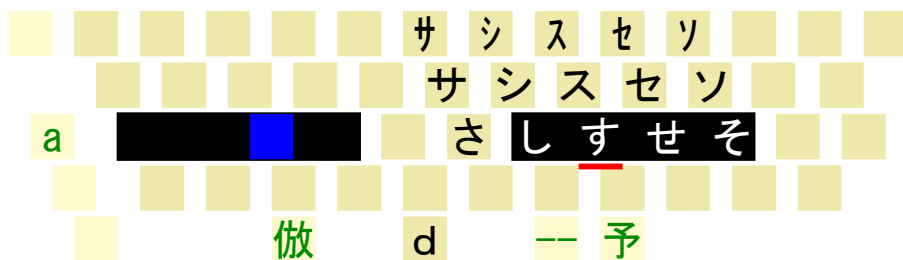
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。

さ の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

さ行



さ行の鍵盤にし、
右中指にある
す の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

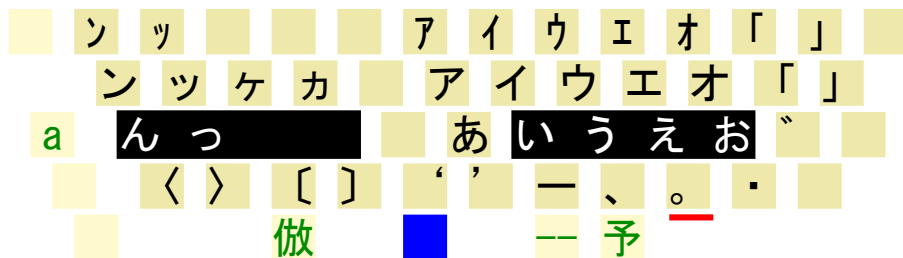
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臈	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

す が入って、
甲鍵盤に戻る。

。 は あ行の鍵盤に
配してあるので、
あ の鍵を打って…

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

あ行、記号



あ行の鍵盤にして、
右薬指下段にある
。 の鍵を打つ。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。|

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 十 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臈 叩 帖 邸 董 α

如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

Enter

。が入って、
甲鍵盤に戻る。

ここで、改行して
おく。即ち、
Enter (K63) を打つ。

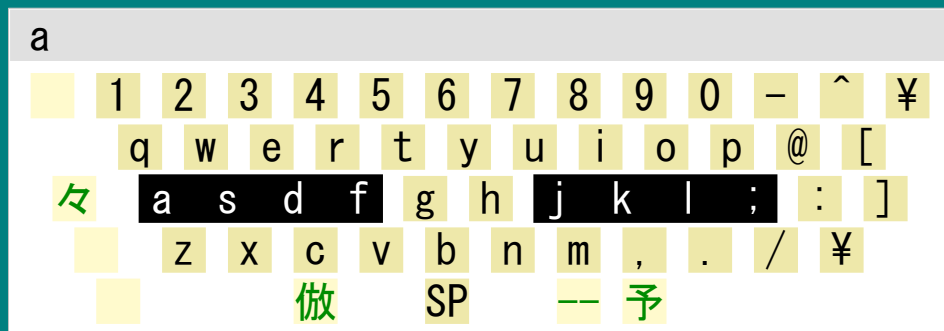
「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

さらに、
a が出ているK54を
打つと、

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。



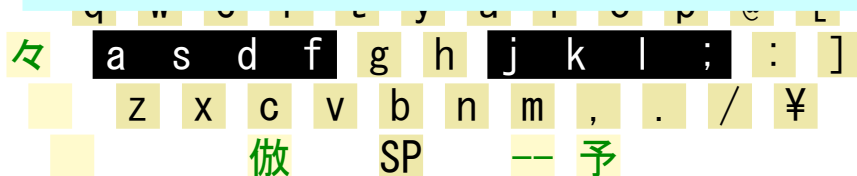
1 打鍵で入力する
単打鍵盤に戻る。

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

このように、『き』では、上の文章を、Shiftの押し、放し、半角/全角の切り替え、改行も含めて、86ステップの鍵操作で入力できる。

例文の鍵盤図列は、1字ずつ打ち入れて行く場合であるが、乙鍵盤には文字列を割り当てることができるので、よく使う語句であれば、その文字列を割り当てておいて、1文字分の打鍵（即ち、甲、乙の2打鍵）で入れてしまうこともできる。

a 『き』には、百相鍵盤 という文字列も割り当ててあるので、その入力操作を次に紹介する。



「**百相鍵盤**」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

スライド54の状態に戻る。
（4ステップ目）

1～47区（『き』の配字）

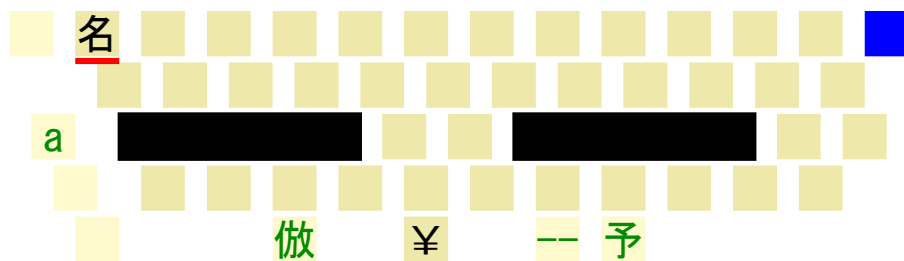
々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

百相鍵盤の文字列
は右小指最上段右端
見出しが*の鍵盤に
配してある。
その鍵を打つと…

文字列の入力

「**百相鍵盤**」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

当座の配字用鍵盤



任意の文字あるいは
文字列を割り当てた
鍵盤が出る。
百相鍵盤 の字列は
左小指最上段 名 の
鍵に配してある。
それを打つと…

文字列の入力

「百相鍵盤」は、
キートップ（鍵）が dynamic に変わる鍵盤です。

スライド66の状態になる。
(4ステップ目から17ステップ目に跳ぶ)

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

百相鍵盤
が一遍に入って、
甲鍵盤に戻る。

以下、
」は、あ行の鍵盤に
あるので…と続く。

文字列の入力

次に、別の例として、

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

を入力して行く打鍵列を同様に示す。

“甲打省略”（乙鍵盤固定）仕様

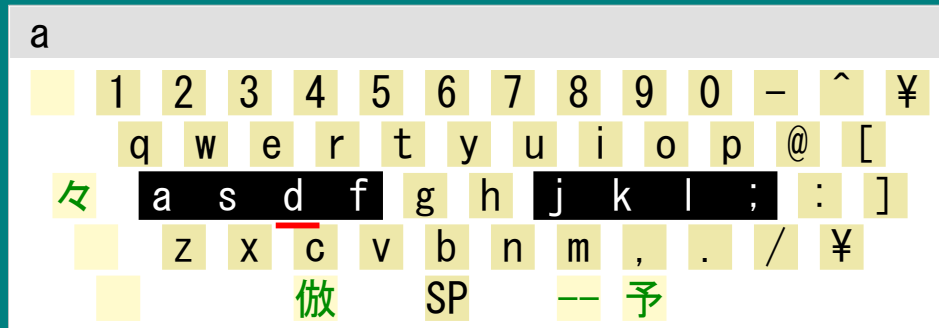
乙鍵盤の文字鍵を打って文字が入ると、通常は甲鍵盤に戻る。しかし、同じ乙鍵盤にある文字を次々入れて行きたい場合もあるので、その時は、甲鍵盤に戻らずに、引き続き乙鍵盤で打って行くこともできる。

即ち、

- ・ 乙鍵盤を出した時に、Shift K54 を打つと、以後、文字が入っても甲鍵盤には戻らず、その乙鍵盤で打ち続けることの出来る状態になる。
- ・ その間、K54を打つと、複打相から単打相に変わるが、再びK54を打つと、複打相の乙鍵盤に直接戻る。
- ・ この乙鍵盤で、再び Shift K54 を打つと、甲鍵盤に戻る。

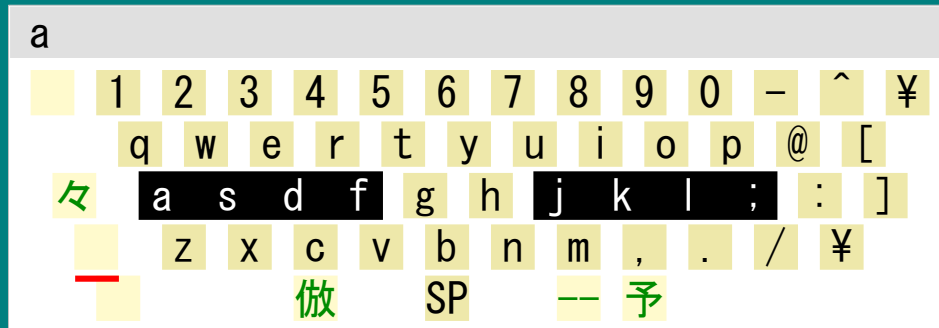
上記文字列の例で、その操作を説明する。

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$



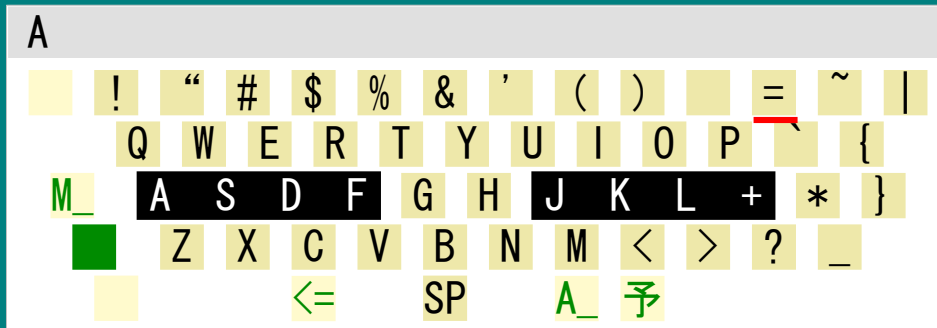
d を打ち…

$d \models \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

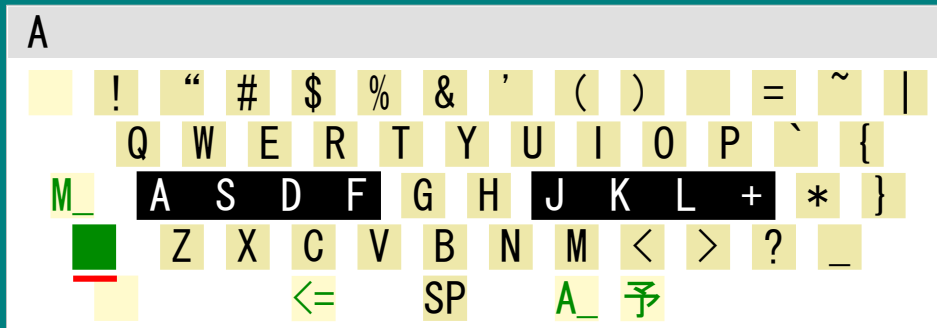


Shiftを押して…

$d \models \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

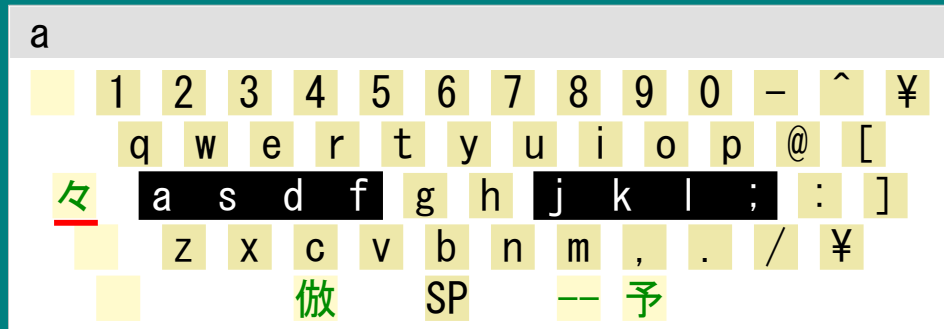


= を打ち…

$$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$$


Shiftを放す。

d= $\alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$



α は全角字なので、
々が出ているK54を
打って…

d= $\alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

1～47区（『き』の配字）

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 卜 *

わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①

a な た さ か 澄 織 臍 叩 帖 邸 董 α

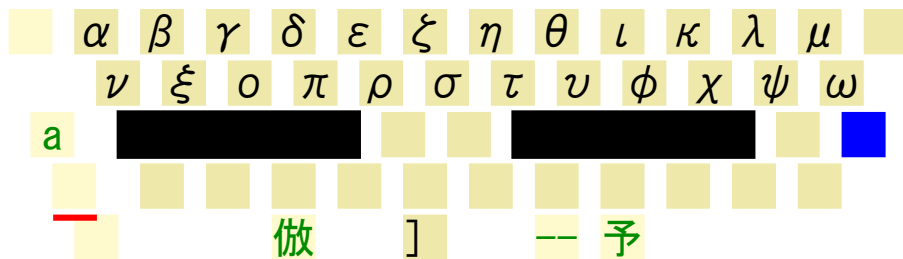
如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я

倣 あ 一 予

甲鍵盤に替える。
ギリシャ文字は
 α の鍵盤にあるので
それを打って…

d=| α β γ + λ μ ν ...

6区 ギリシャ文字



ギリシャ文字の鍵盤を出す。
このまま α を打つと
 α が入った後甲鍵盤
戻ってしまうので、
Shiftを押して...

d= $\alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

6区 ギリシャ文字（大文字）



表示が \rightarrow になった
打相鍵 K54を打つと
...

d=| α β γ + λ μ ν ...

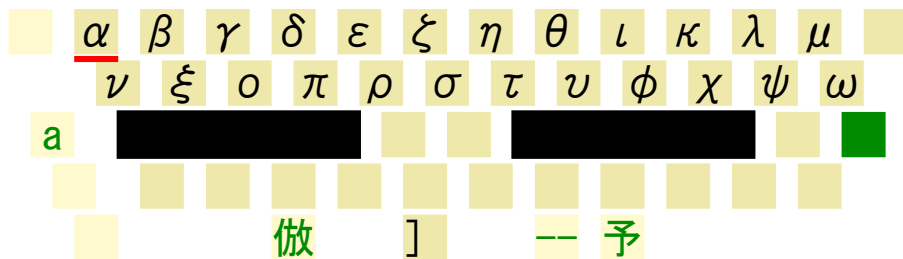
6区 ギリシャ文字（大文字）



以後甲打を省略して
出る乙鍵盤になる。
甲鍵盤で当乙鍵盤を
出す位置を知らせる
■が■に変わり、その
状態を表す。
Shiftを放して…

d=| α β γ + λ μ ν ...

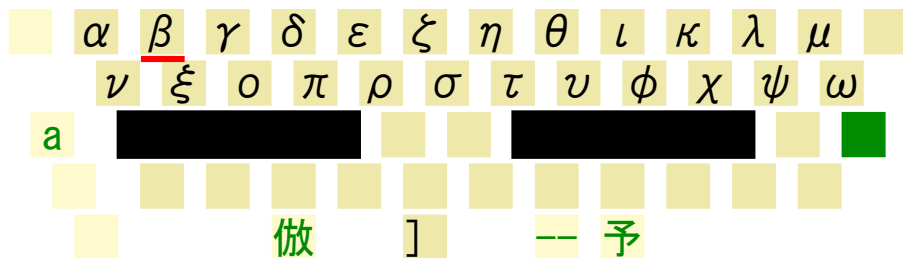
6区 ギリシャ文字



表鍵盤にする。
αを打ち…

$d = \alpha | \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

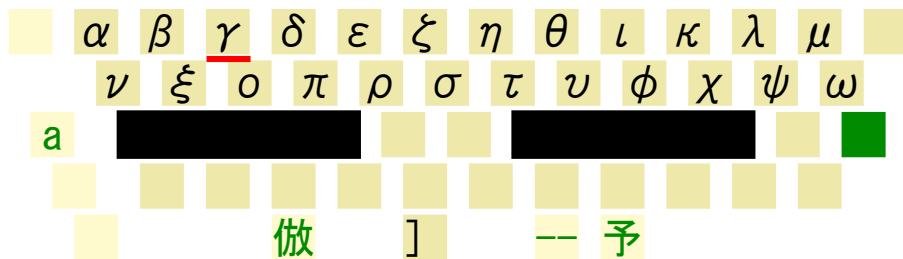
6区 ギリシャ文字



βを打ち…

$d = \alpha \beta \mid \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

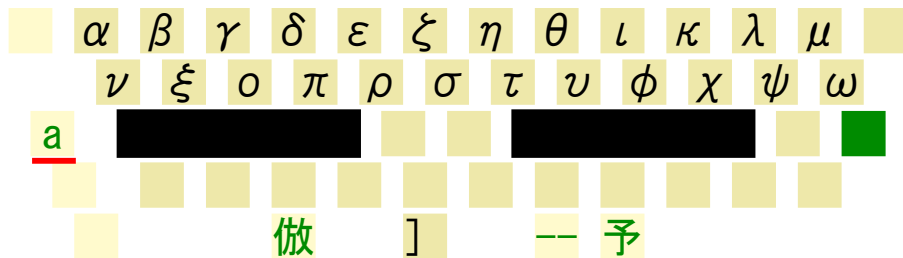
6区 ギリシャ文字



γ を打つ。

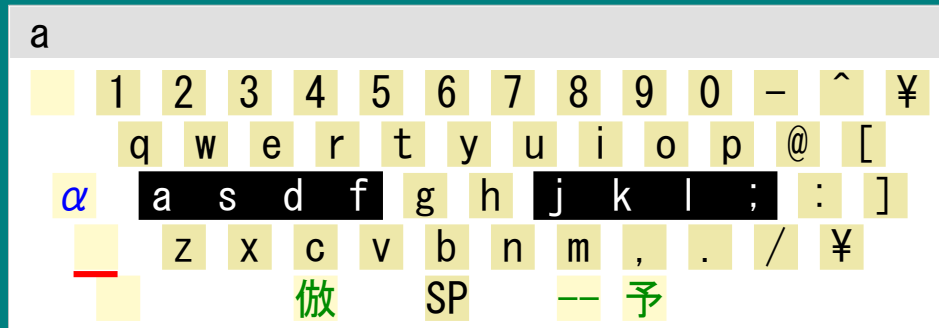
d=α β γ+λ μ ν...

6区 ギリシャ文字



次は半角字なので、
K54 を打って...

d = α β γ + λ μ ν ...

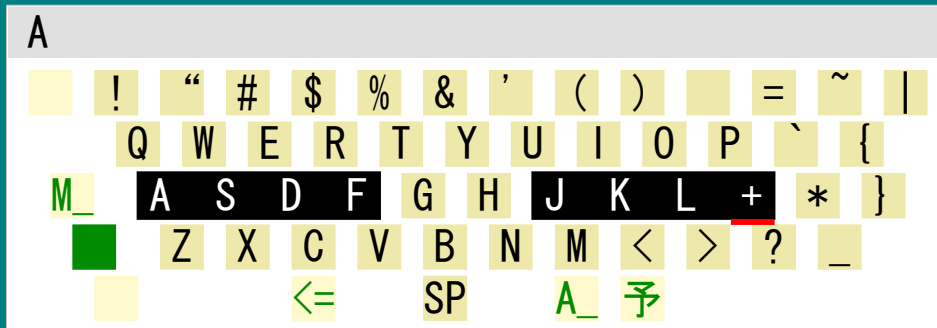


単打鍵盤に替える。

K54 は α に変わり、
次回は直接乙鍵盤に
戻ることを示す。

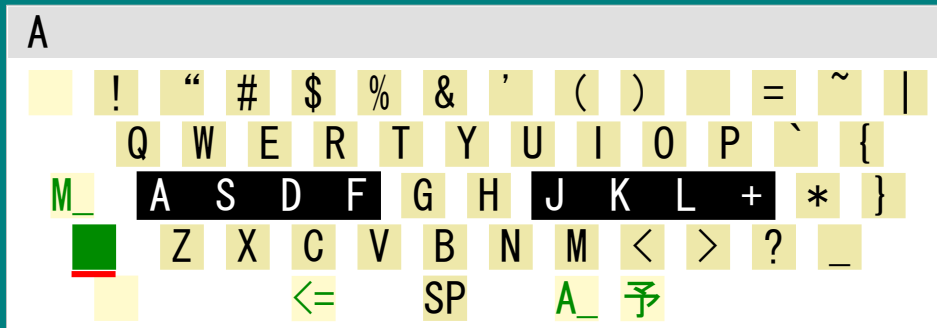
Shiftを押して…

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$



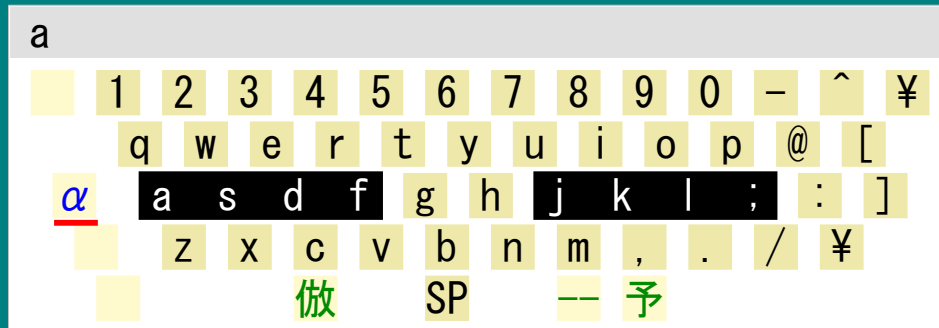
+ を打ち…

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$



Shiftを放す。

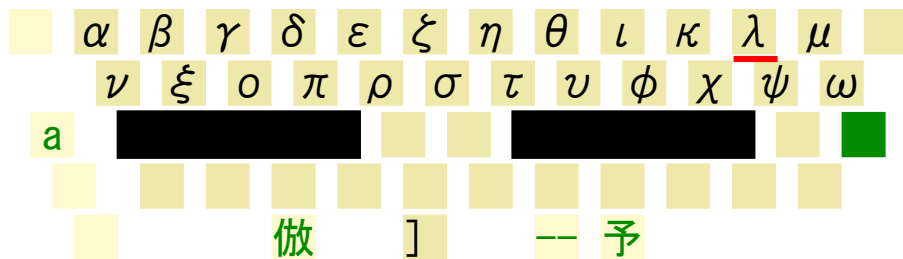
d = α β γ + λ μ ν ...



次は、再びギリシャ文字なので、 α が出ているK54を打って...

d=α β γ+λ μ ν...

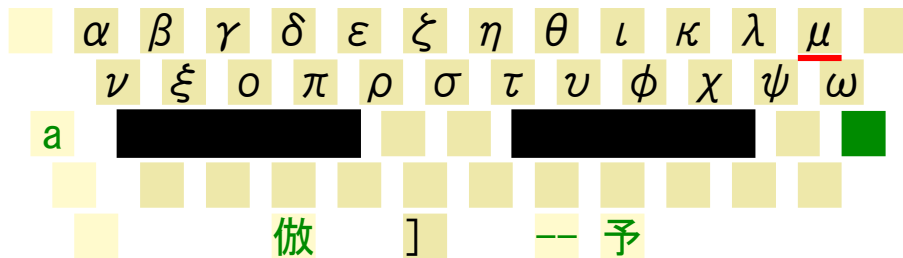
6区 ギリシャ文字



ギリシャ文字乙鍵盤
を再開する。
λを打ち...

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mid \mu \nu \dots$

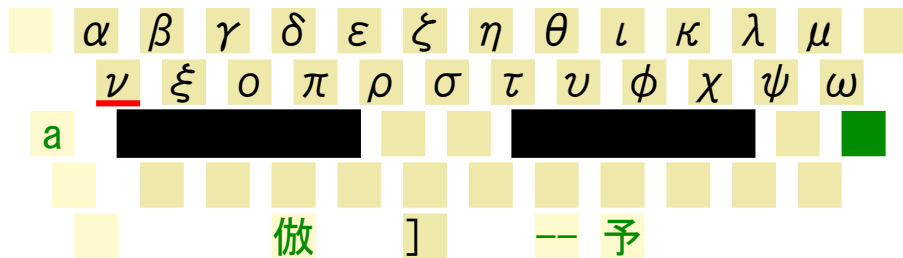
6区 ギリシャ文字



μを打ち…

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu | \nu \dots$

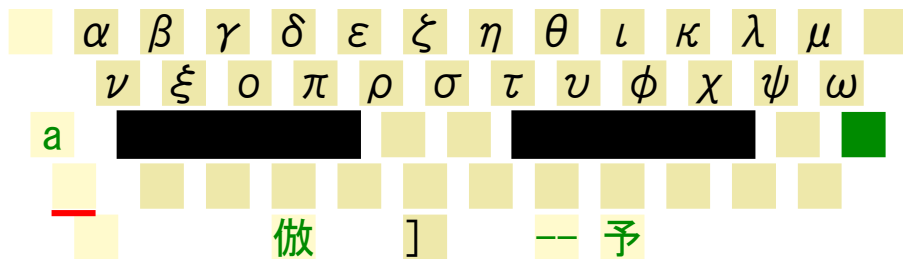
6区 ギリシャ文字



ν を打つ。

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu | \dots$

6区 ギリシャ文字



…は異なる乙鍵盤にあるので、当乙鍵盤の固定を解除して、甲鍵盤に戻す。
まず、Shiftを押して…

$$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \mid \dots$$

6区 ギリシャ文字 (大文字)

[illegible]

表示が <-に変わるK54
を打つと…

$$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \mid \dots$$

48～94区（第2水準）

式 僉 辦 咫 圀 奸 屐 廖 悄 戛 據 曄 *
 楮 槩 汩 漾 燹 瓠 癩 磧 筐 紂 罍 隋
 M_ 茵 蕁 蟪 襦 譟 蹇 遏 錙 陝 顱 髻 鵝
 堯 纘 忞 狢 釗
 <= 00 A_ 予

Shiftを押した状態
の甲鍵盤(裏甲鍵盤)
に戻る。
Shiftを放すと…

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu | \dots$

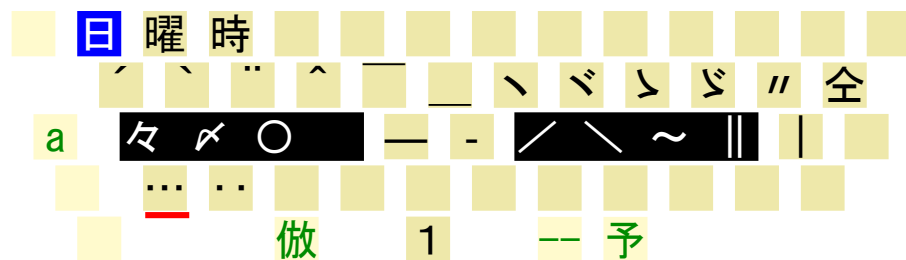
1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

表甲鍵盤に戻る。
…は々の鍵盤にある
ので、それを打って
…

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu | \dots$

記号（主に 1 区）



その乙鍵盤を出し、
左小指下段に見える
…の鍵を打つ。

なお、最上段左方に見える
日 は日付で、09-05-22
曜 は曜日で、金
時 は時刻で、16:31:59
のように打鍵時の値が入る。

$d = \alpha \beta \gamma + \lambda \mu \nu \dots$

1～47区（『き』の配字）

々	◇	亜	院	押	魁	粥	機	供	掘	検	十	*
わ	ら	や	ま	后	此	察	次	宗	勝	拭	①	
a	な	た	さ	か	澄	織	臍	叩	帖	邸	董	α
	如	函	は	鼻	福	法	漫	諭	痢	蓮	я	
		倣		あ		一	予					

…が入って甲鍵盤に戻る。

以上、百相鍵盤の考え方と基本の入力操作について、鍵盤図を示しながら、具体的に説明してきた。

文字はランダムに並んでいるわけではなく、自分で並べ方を決めておくものなので、それぞれの文字鍵位置を知ることには一般に受け取られているほど難しい問題ではない。

特に、配列規則を決めて並べておけば、文字は互いの位置を教え合うように並ぶ状態になり、探すのも覚えるのも容易になる。

従って、知っている文字が打てるようになるだけでなく、盤面から新たに知り、それも楽に打てるようにして行くことができる。

その意味で、文字入力的方式として健全であるといえる。

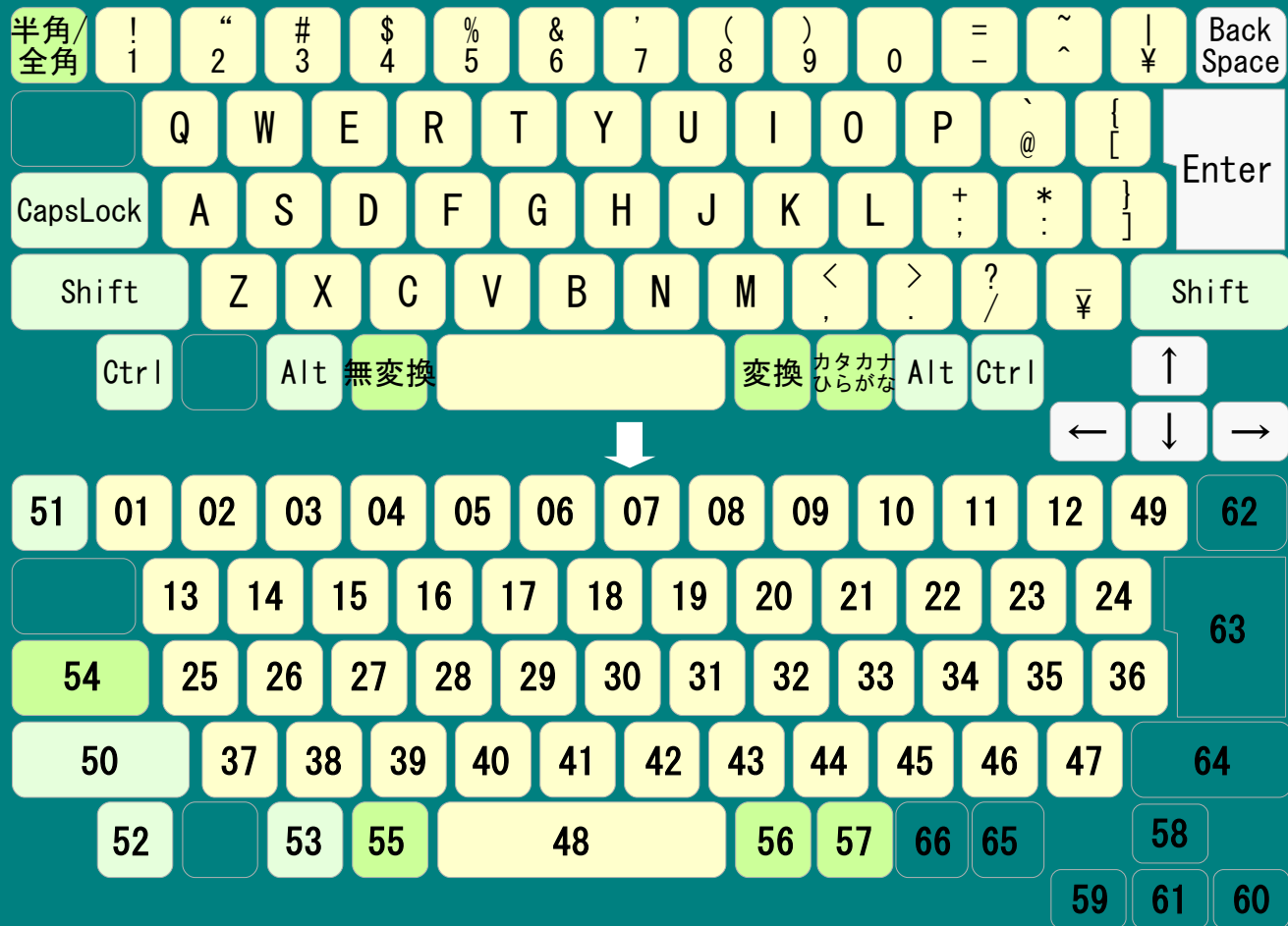
そこで、百相鍵盤には、目的の鍵がなかなか分からない時、あるいは、表記自体が分からない時に、字引で教わりながら打って行き、次からは直接打てるようにする「倣い入力」と呼ぶ特異な入力支援機能を実装してある。

また、割り当ててある文字の内容や文字列、機能などが、鍵に表示される見出しからでは判らない時は、「下見」の機能で知ることもしできる。

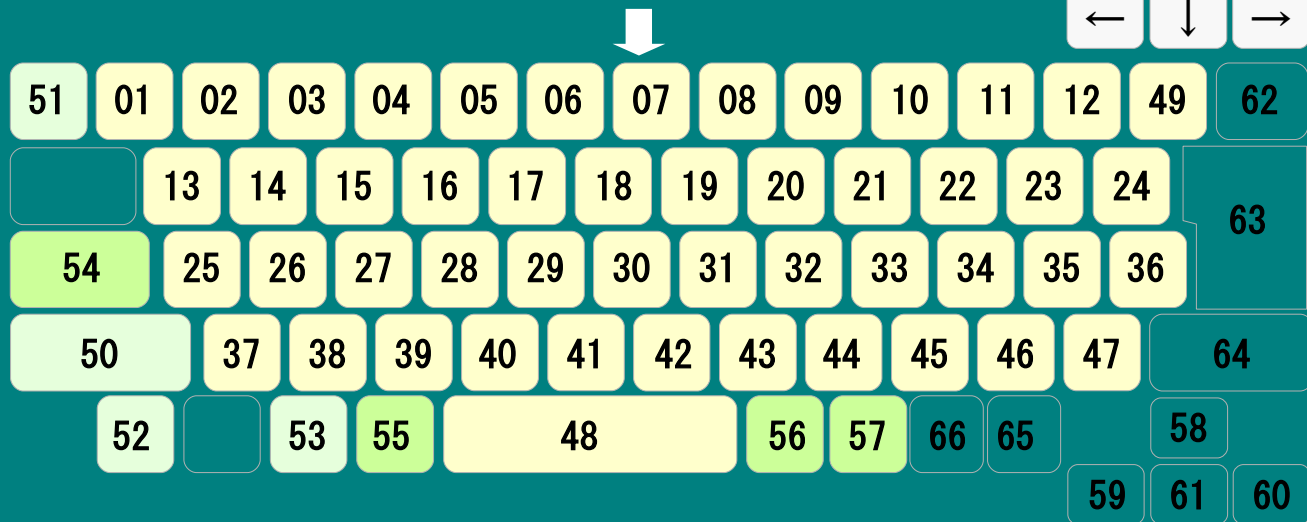
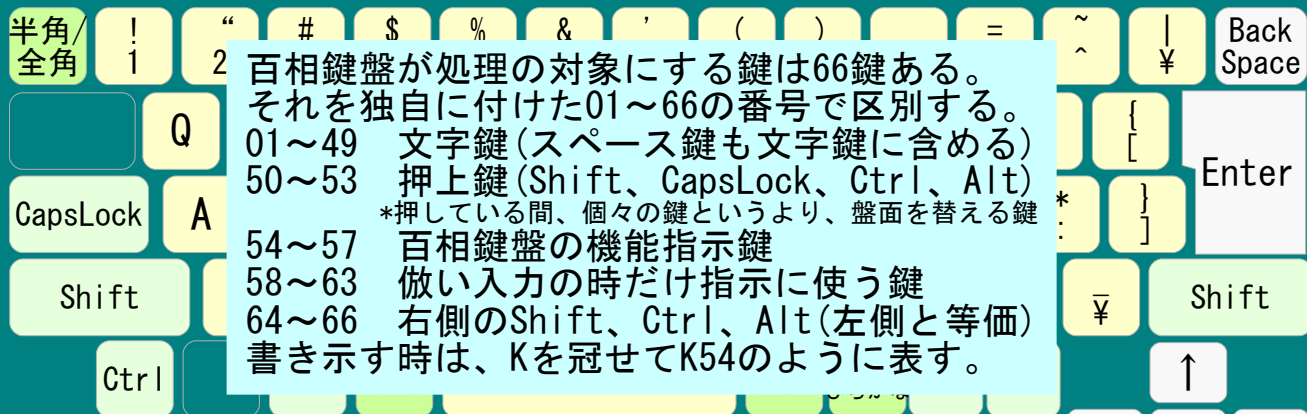
更に、音声による支援機能も、試行錯誤の段階ではあるが、今後の資料となるように、組み込んである。

これらの機能については、稿を改めて説明する。

なお、使用する鍵や文字の割り当てを定義するファイルについては、この後に、資料を収めてある。



百相鍵盤で使う鍵の参照番号（配鍵番号 K54のように表す）



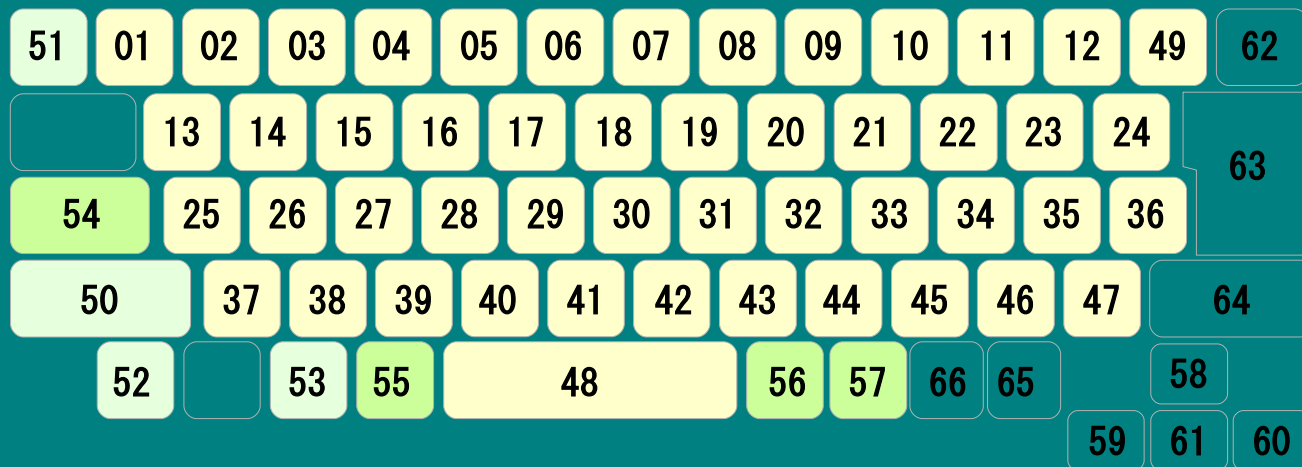
百相鍵盤で使う鍵の参照番号（配鍵番号 K54のように表す）

K54 「配字簿」(文字の割当てを記したテキストファイル)に関する指示

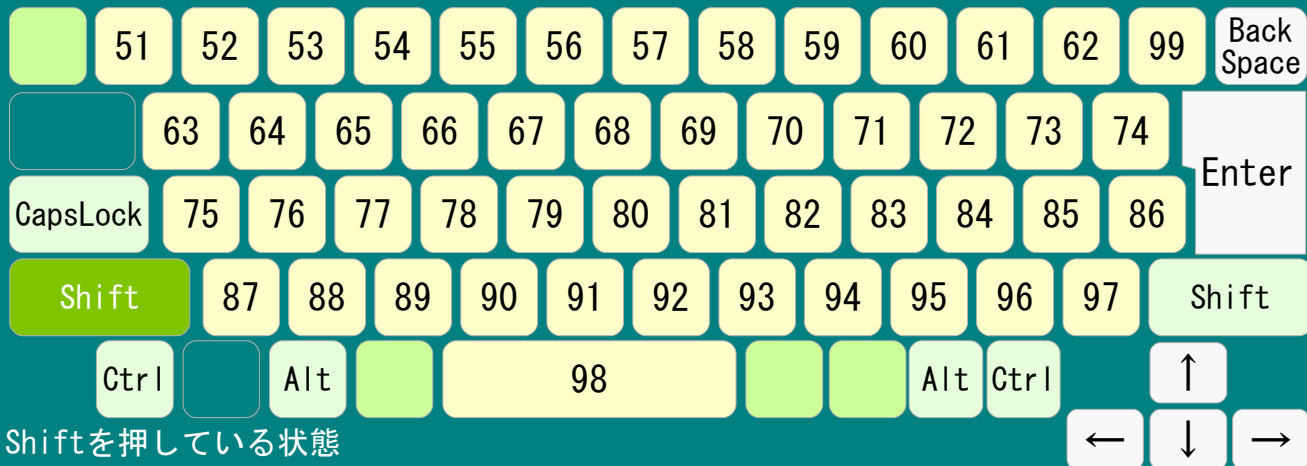
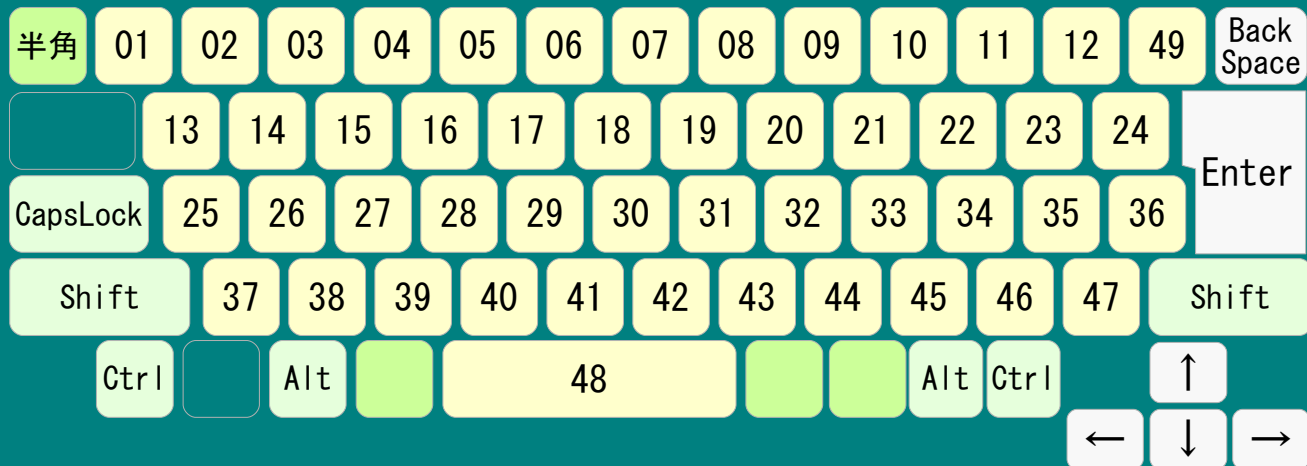
K55 「倣い入力」(字引を使って、目的字の文字鍵あるいは表記自体を教わりながら打てる機能)に関する指示

K56 表示や音声通知の仕方に関する指示

K57 「下見」(文字鍵や機能鍵を打つと、実行はせずに、効果を表示あるいは音声で知ることのできる機能)の開始・終了の指示

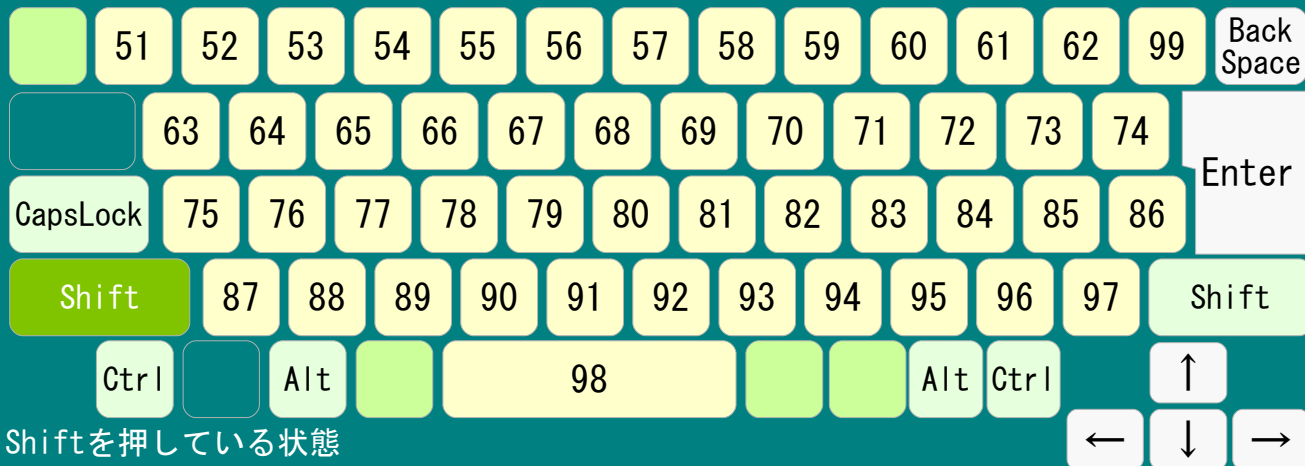
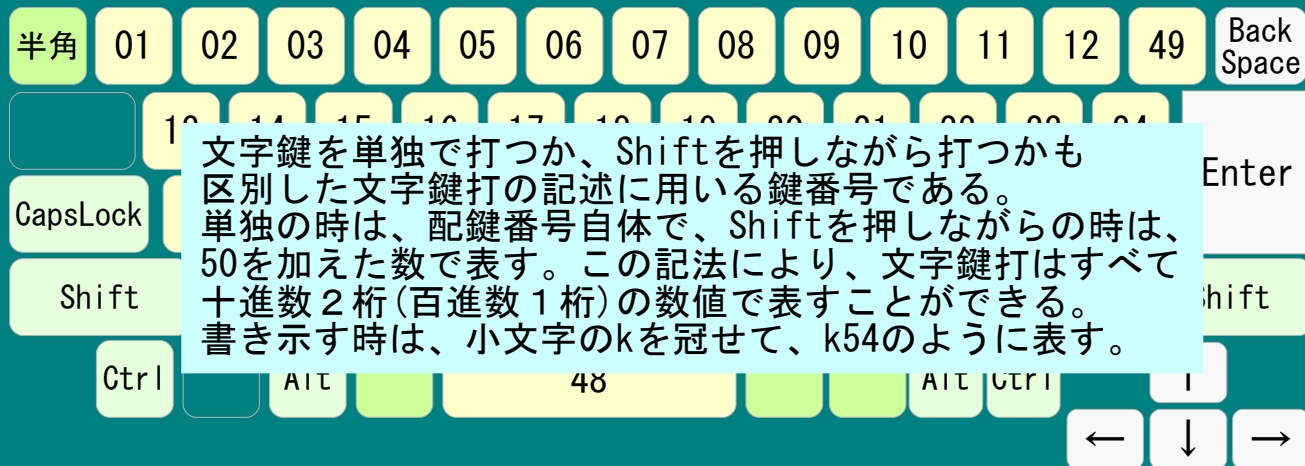


百相鍵盤の機能鍵 4 鍵の主な役割



Shiftを押している状態

Shiftも区別した文字鍵の参照番号（文字鍵番号 k54のように表す） 173



Shiftも区別した文字鍵の参照番号（文字鍵番号 k54のように表す） 174

0001	表甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
0002	裏甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
	(3～99行は予備)						
0100	乙鍵盤01						
0200	乙鍵盤02						
0300	乙鍵盤03						
0400	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
4800	乙鍵盤48						
4900	乙鍵盤49						
5000	(5000～5099行は予備)						
5100	乙鍵盤51						
5200	乙鍵盤52						
5300	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
9900	乙鍵盤99						
9999							

配字簿

文字打鍵を特定する記法

文字鍵打を、01～49、51～99という十進数2桁の文字鍵番号で表すことにより、**甲鍵盤で乙鍵盤を出す打鍵(甲打)**も、乙鍵盤で文字を入力する打鍵(乙打)も、一様にそれぞれの文字鍵番号で表せる。

そこで、**甲打**、乙打の順に各文字鍵番号を並べた4桁の数が行番号である行に、それで入る文字(文字列)とそれに関連する事柄を記載する。

対応する打鍵のない**00xx**、**xx00**、**xx50**、**50xx**行は次のように利用する。

0001 表甲鍵盤の標題行(配字簿の標題行も兼ねる)

0002 裏甲鍵盤の標題行

0003～0099、**5000～5099** は、当面、メモに使う。それ以外の**xx00**は表乙鍵盤の、**xx50**は裏乙鍵盤のそれぞれ標題行の記述に利用する。

0001	表甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
0002	裏甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
	(3～99行は予備)						
0100	乙鍵盤01						
0200	乙鍵盤02						
0300	乙鍵盤03						
0400	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
4800	乙鍵盤48						
4900	乙鍵盤49						
5000	(5000～5099行は予備)						
5100	乙鍵盤51						
5200	乙鍵盤52						
5300	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
9900	乙鍵盤99						
9999							

配字簿

行内の記載書式

標題行

見出し tab 標題 tab 読上文 tab メモ

定義行

見出し tab 本字列 備考 tab 読上文 tab メモ

見出し、標題、本字列、読上文、備考、メモは、いずれも文字列で、このうち本字列は半角スペースを含まない。

見出しは、文字鍵に表示する文字で高々2字程度、本字列は、入力する文字(文字列)が見出しと異なる場合に記載する。

備考は、下見の時に、本字列と共に表示させて見ることのできる文字列で、入力はされない。本字列の後にスペースを置いて区別する。

読上文は、行内容を音声で知らせる文字列である。メモは、使用者が配字簿に書き留めておく文字列で百相鍵盤は読み捨てる。

0001	表甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
0002	裏甲見出し	tab	標題	tab	読上文	tab	メモ
	(3～99行は予備)						
0100	乙鍵盤01						
0200	乙鍵盤02						
0300	乙鍵盤03						
0400	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
4800	乙鍵盤48						
4900	乙鍵盤49						
5000	(5000～5099行は予備)						
5100	乙鍵盤51						
5200	乙鍵盤52						
5300	⋮						
⋮	⋮						
⋮	⋮						
9900	乙鍵盤99						
9999							

配字簿の行と文字鍵の対応

表甲鍵盤文字鍵番号 01～49

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	49
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
a	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
			倣		48		--	予					

表乙鍵盤標題 0300

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	49
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
a	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
			倣		48		--	予					

裏乙鍵盤標題 0350

	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	99
	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	
->	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	
	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97		
			<=		98		A_	予					

0001	々	1～47区 (『き』の配字)
0002	弌	48～94区 (第2水準)
		(3～99行は予備)
0100	々	
0200	◇	
0300	<u>亜</u>	
0400		
		⋮
4800	あ	
4900	個	
5000		(5000～5099行は予備)
5100	弌	
5200	食	
5300		⋮
		⋮
9900		
9999		

配字簿の実例 kiMap

1～47区 (『き』の配字)

々 ◇ 亜 院 押 魁 粥 機 供 掘 検 ー *
 わ ら や ま 后 此 察 次 宗 勝 拭 ①
 a な た さ か 澄 織 臓 叩 帖 邸 董 α
 如 函 は 鼻 福 法 漫 諭 痢 蓮 я
 倣 あ 予

16区 ア～イ

亜 啞 娃 阿 哀 愛 挨 始 逢 葵 茜 穉
 惡 握 渥 旭 葦 芦 鰲 梓 庠 幹 扱 宛
 a 姐 虻 飴 絢 綾 鮎 或 粟 拾 安 庵 按
 暗 案 闇 鞍 杏 以 伊 位 依 偉 圀
 倣 3 予

16区 イ～イン

夷 委 威 尉 惟 意 慰 易 椅 為 畏 異
 移 維 緯 胃 萎 衣 謂 違 遺 医 井 亥
 -> 域 育 郁 磯 一 壺 溢 逸 稻 茨 芋 鰯
 允 印 咽 員 因 姻 引 飲 淫 胤 蔭
 <= A_ 予

0001	々 1～47区 (『き』の配字)
0002	式 48～94区 (第2水準)
	(3～99行は予備)
0100	々
0200	◇
0300	亜

0400	
	・
	・
	・
4800	あ
4900	個
5000	(5000～5099行は予備)
5100	式
5200	食
5300	
	・
	・
	・
9900	
9999	

0300	亜	16区 ア～イ	:a, zU-ro^`ku
0301	啞	常 7 ア	:a, TuGu
0302	娃	10 ア	:a, ro-ano a
0303	阿	9 ア	アイ うつくしい :a, a^i, uTukusi^-
0304	哀	名 8 ア	おもねる くま :a, kuma
0305	愛	常 9 アイ	あわれ あわれむ:a^i, a^ware
0306	挨	四13 アイ	:a^i, mede^ru
0307	始	10 アイ	:a^i, a^isaTu no a^i
0308	逢	9 あい	オウ :a^i, mime0^i
0309	葵	10 あう	ホウ :a^u, ho^u
0310	茜	名12 あおい	キギ :ao^i, ki, gi
0311	穂	名 9 あかね	セン :akane, se^N
0312	悪	16 あき	シュウ :a^ki, sU^u
0313	握	三11 アク	オ わるい :a^ku, o, war^i
0314	渥	常12 アク	にぎる :a^ku, niGiru
0315	旭	名12 アク	あつい うるおう:a^ku, aTu^i
0316	葦	名 6 あさひ	キヨク :a^sahi, k0^ku
0317	芦	12 あし	よし イ :a^sl, 0^sl

表乙鍵盤標題 0300

	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	49
	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
a	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
			倣		48		--	予					

16区 ア～イ

	亜	啞	娃	阿	哀	愛	挨	始	逢	葵	茜	穂	
	悪	握	渥	旭	葦	芦	鱈	梓	圧	幹	扱	宛	
a	姐	虻	飴	絢	綾	鮎	或	栗	裕	安	庵	按	
	暗	案	闇	鞍	杏	以	伊	位	依	偉	圀		
			倣		3		--	予					

0001	々	1～47区 (『き』の配字)
0002	弍	48～94区 (第2水準)
		(3～99行は予備)
0100	々	
0200	◇	
0300	垂	
0400		
・		
・		
・		
4800	あ	
4900	個	
5000		(5000～5099行は予備)
5100	弍	
5200	僉	
5300		
・		
・		
・		
9900		
9999		

0350	夷	16区	イ~イン	:i, zU-ro^ku
0351	夷	6	イ えびす	:i, ebisu
0352	委	8	イ ゆだねる	くわしい:i, Udane^ru
0353	威	常9	イ おどす	:i, odosu
0354	尉	常11	イ じょう	:i, z0^u, osae^ru
0355	惟	名11	イ これ	ただ ユイ :i, kore, ta^da
0356	意	常13	イ	:i, omo^u
0357	慰	常15	イ なぐさめる	なぐさむ :i, naGusame^ru
0358	易	五8	イ エキ	やさしい :i, e^ki, Asasli
0359	椅	12	イ いす	:i, isu
0360	為	常9	イ ため	なす :i, tame, na^su
0361	畏	9	イ おそれ	:i, osore^ru
0362	異	六11	イ こと	:i, kotona^ru
0363	移	五11	イ うつる	うつす :i, uTu^ru
0364	維	常14	イ	:i, kore, Tuna
0365	緯	常16	イ よこいと	:i, Okoito
0366	胃	四9	イ	ibu^kuro no i
0367	萎	11	イ なる	:i, nae^ru

裏乙鍵盤標題 0350

51 52 **53** 54 55 56 57 58 59 60 61 62 99
63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74
-> **75 76 77 78** 79 80 **81 82 83 84** 85 86
87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97
98 A 予

16区 イ～イン

夷委威尉惟意慰易椅為畏異
移維緯胃萎衣謂違遺医井亥
→ 域育郁磯一壹溢逸稻茨芋鰓
允印咽員因姻引飲淫胤蔭
≤ A 予